取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

TABLE OF CONTENTS
目次

ナビゲーションシステムを装着されたかたは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。
サイドリフトアップシートを装着されたかたは、別冊「サイドリフトアップシート取扱書」も併せてお読みください。

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

2 運転するときに

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 3 分割デッキボードの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

1
2
3
4
5
6

6-2 カスタマイズ機能

6-3 初期設定

さくいん

1
2
3
4
5
6

外観

▶ G's を除く

▶ G's

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤウインドウ
デフォッガー P. 231
リヤワイパー P. 176
バックドア P. 50
スライドドア P. 40
ドア P. 37
BTO00BE002
番号灯 P. 168
尾灯 P. 168
方向指示灯 P. 155
タイヤ
●ローテーション P. 280
●交換 P. 334

イラスト目次 室内

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
ドアロックスイッチ P. 37
ウインドウロックスイッチ P. 96
ドアロックレバー P. 38
MIRROR
ALL AUTO
BTO00BD005
ドアミラースイッチ P. 91
パワーウインドウスイッチ P. 96

▶５人乗り車

BTO00BD006

３分割デッキボード P. 233

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A
エアコン P. 216
PASSENGER
TEMP
26.0 24.5
TEMP
REAR
DUAL
MODE
AUTO
OFF
FRONT
REAR
A/C
PASSENGER
BTO00BD008
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ P. 231

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

D

▶ 運転席左側トレイ装着車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取りつけかたなどをまとめた「チャイルドシートの取りつけ」（→P. 126）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

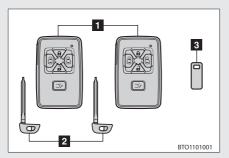
➡ スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

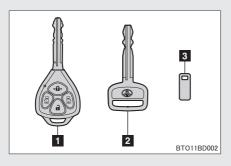
キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 電子キー
- スマートエントリー&スタートシステムの作動（→P. 24）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 34）

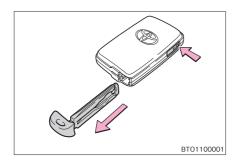
2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 キー（ワイヤレス機能装着）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 34）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 351）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 350）

■航空機に乗るときは

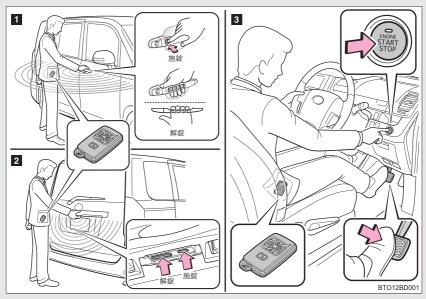
航空機に電子キー・ワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内で電子キー・ワイヤレスキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

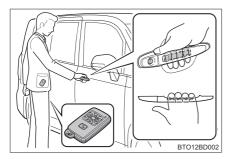
- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼りつけたりしないでください。

スマートエントリー&スタートシステム*

電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください。）

1 ドアの解錠・施錠 （→P. 25）
2 バックドアの解錠・施錠 （→P. 26）
3 エンジンの始動 （→P. 145）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）

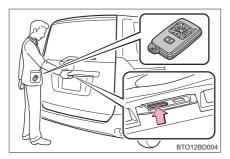
BTO12BD002

ハンドルを握って解錠する

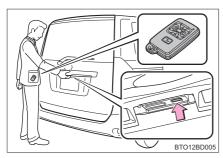
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

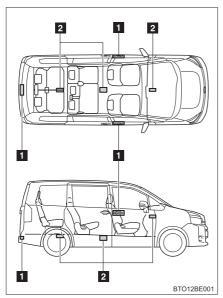
BTO12BD003

ロックスイッチを押して施錠する

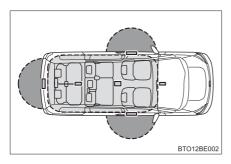
バックドアの解錠・施錠

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後３秒間は解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

●2 週間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●車両の外約 70 cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかを行うと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 34）

●メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 351）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は1～2年です。（電子キーを使用しなくても電池は消耗します。）スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 308）

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 31）

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ ＴＶ
・ パソコン
・ 充電中の携帯電話やコードレス電話機
・ 電気スタンド

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ちかたによっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・バックドアの施錠・解錠時に電子キーがリヤバンパー中央に近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）

●手袋をはめていると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。）

●作動範囲（→P. 27）への急な接近や、急なドアハンドル操作をしたときは、ドアが解錠されないことがあります。その場合は、一度ドアハンドルをもとの位置にもどして、再度、解錠操作をしてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■警告音と警告灯の点灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯したときは、状況に応じて適切に対処してください。(→P. 329)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ピー”と 1 回鳴る	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください（→P. 308）
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーを P 以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P にしてください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

● ドアの施錠、解錠：→P. 351

●エンジン始動：→P. 351

■電池が切れたときは

→P. 308

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧 →P. 371）

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 27）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■**機能が正常に働かないおそれのある状況**

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 351)

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●複数の電子キーが近くにあるとき

●電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき

・ほかの車の電子キー

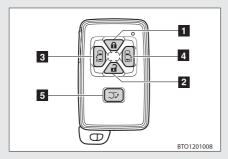
・電波式ワイヤレスリモコン

・パソコン

●リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

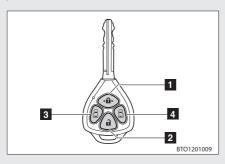
ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠
3 助手席側パワースライドドア開閉(約1秒長押し)
4 運転席側パワースライドドア開閉*(約1秒長押し)
5 パワーバックドア開閉*(約1秒長押し)

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠
3 助手席側パワースライドドア開閉*(約1秒長押し)
4 運転席側パワースライドドア開閉*(約1秒長押し)

*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動の合図

ドア：ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

パワースライドドア：ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

パワーバックドア：ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、作動中は継続）

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■制限事項について

以下の場合は、ワイヤレスリモコンが作動しません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF 以外のとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチにキーが挿し込まれているとき

■電池の消耗について

→P. 28

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■電池が切れたときは

→P. 308

■電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 351

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 33

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 371)

■パワースライドドア、パワーバックドアの反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切り替わります。ただし、自動開閉作動が開始して約 1 秒間は、再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押しても反転作動に切り替わりません。

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 33

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

以下のようなの場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製の物に接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

フロントドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム（スマートエトリー&スタートシステム装着車）

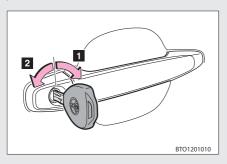
→P. 25

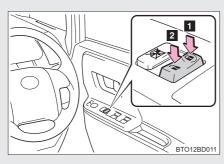
■ ワイヤレス機能

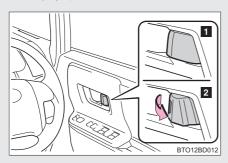
→P. 34

■ キー

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠できます。（→P. 351）

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

キーがエンジン スイッチに差し込まれているときは施錠されません。

警告

■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●全てのドアを施錠する

●全てのドアを確実に閉める

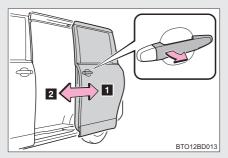
●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対応できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

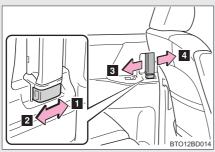
スライドドア

ドアハンドルやパワースライドドアスイッチ、ワイヤレス機能を使って開閉することができます。

■ スライドドアハンドル

1 開く

2 閉じる

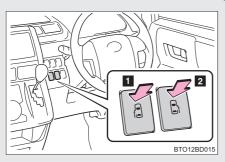
ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

3 開く

4 閉じる

■ パワースライドドアスイッチ（パワースライドドア装着車）

1 助手席側スイッチ（約 1 秒長押し）

2 運転席側スイッチ（約 1 秒長押し）

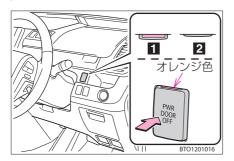
開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

■ ワイヤレス機能（パワースライドドア装着車）
→P. 34

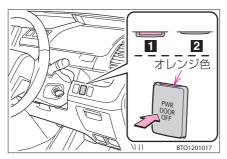
パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

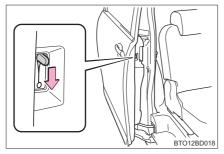
OFFにするとパワーバックドアも使用できなくなります。（パワーバックドア装着車）

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 ON

2 OFF

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 ON

2 OFF

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが内側から開かなくなります

お子さまが内側からスライドドアを開けないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

知識

■中間ストッパー

給油口が開いていると、助手席側のスライドドアは途中までしか開きません。(中間ストッパーの位置で停止します。)

■スライドドアイージークローザー（イージークローザー装着車）

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、スライドドアが自動で完全に閉まります。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）またはエンジン スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）がどの状態であっても、イージークローザーは作動します。

●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。)

■パワースライドドアの作動可能条件（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチが ON で、以下の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワースライドドアが解錠されている（閉作動を除く）

●給油口が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチが“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）のときは上記に加え、車速が 3km/h 未満かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

・シフトレバーが P のとき
・パーキングブレーキがかかっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について（パワースライドドア装着車）

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 5cm 手前の範囲で異常を感知すると、その位置で作動を停止します。

●連続して 2 回以上同方向への異常を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。
もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチを OFF にしたあと、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

■給油口開警告ブザー（パワースライドドア装着車）

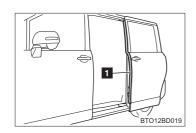
●給油口が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。

●助手席側パワースライドドア開閉中に給油口を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

●スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの前端部には、センサー（1）がついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

■サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートが完全に上昇しきっていない状態で、パワースライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは閉まりません。

警告

■走行中の警告

走行中は以下のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず着用する
- ●全てのドアを施錠する
- ●全てのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない
- ●お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする

■お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ●お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

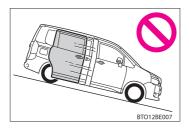
■**スライドドアの操作にあたって**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手、足、顔などを出さないでください。

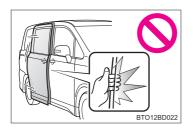
●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●半開状態ではスライドドアが停止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。

●坂道ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体に当たったり挟んだりしないよう、注意してください。

●下り坂での停車時に乗りおりするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

警告

■スライドドアイージークローザーについて（イージークローザー装着車）

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●スライドドアが自動で開いている途中でパワースライドドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

警告

- 次のような場合、システムが異常と判断し、自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時自動開閉中に“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤作動防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

■**挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しないばあいがあります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

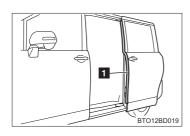
■スライドドアについて

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- スライドドアのドアポケットに雑誌などを収納したときは、折れ曲がったりして、ドアポケットからはみ出していないことを確認してください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりでなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷がついたり、故障につながるおそれがあります。
- 走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。

- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

■スライドドアイージークローザーについて（イージークローザー装着車）

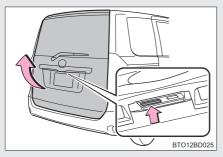
- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

パワースライドドア前端部のセンサー（1）を刃物などの鋭利なもので傷つけないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

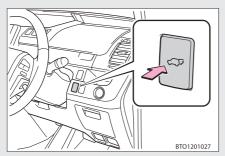
バックドア

バックドアオープンスイッチやパワーバックドアスイッチ、ワイヤレス機能、パワーバックドアクローズスイッチを使って開閉することができます。

■ 車外からバックドアを開けるには

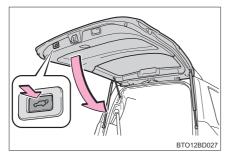
▶ バックドアオープンスイッチ

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

▶ ワイヤレス機能（パワーバックドア装着車）
→P. 34

■ 車内からバックドアを開けるには（パワーバックドア装着車）

スイッチを約 1 秒長押しする

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

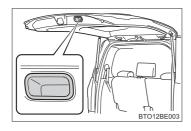
パワーバックドアクローズスイッチ（パワーバックドア装着車）

BTO12BD027

スイッチを押すとブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅し、バックドアが自動で閉まります。

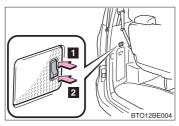
バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び開きます。

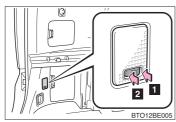
知識

■バックドアハンドル

BTO12BE003

バックドアを引き下げるときにお使いください。
バックドアハンドルを持ったまま直接バックドアを閉めないでください。

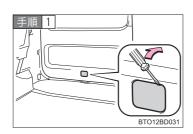
■ラゲージルームライトについて

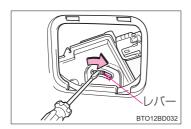
スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

（7、8 人乗り車）

1 OFF
2 ON

（5 人乗り車）

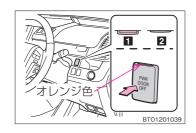
1 OFF
2 ON

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

カバーをはずす。

手順 2 レバーを押す。

（パワーバックドア非装着車）

（パワーバックドア装着車）

■パワーバックドアメインスイッチについて（パワーバックドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチと兼用しています。

1 ON

2 OFF

■バックドアイージークローザー（パワーバックドア装着車）

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きバックドアが自動で閉まります。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチが ON で、以下の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワーバックドアが解錠されている

●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには上記に加え、車速が 5km/h 未満かつシフトレバーが P になっていることが必要です。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

●パワーバックドアメインスイッチが OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動操作に切り替わります。

●パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

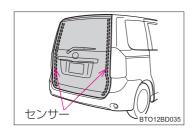
●連続して 2 回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

●ドアロックスイッチでドアを解錠します。

●バックドアのバックドアハンドルを持って、手動で一度全閉にします。

■挟み込み防止機構（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの左右端部には、センサーがついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

警告

■走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉じてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ●バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- ●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

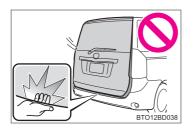
BTO12BD037

- ●半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

BTO12BD039

- ●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- ●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■イージークローザーについて（パワーバックドア装着車）

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●バックドアが自動で開いている途中でパワーバックドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

警告

● 次のような場合、システムが異常と判断し、自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
・ エンジン停止時自動開閉中に“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

● バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。

● タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

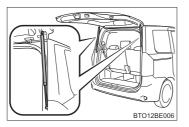
● 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しないばあいがあります。指などを挟まないように注意してください。

● 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■**ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などで触れない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■**イージークローザーの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）**

イージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。

■**パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）**

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの張り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

フロントシート

1 前後位置調整

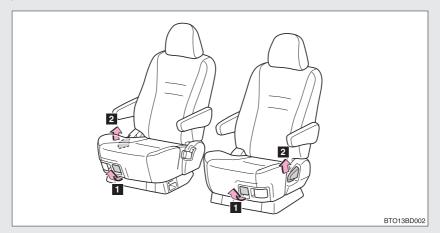
2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席）

⚠ 警告

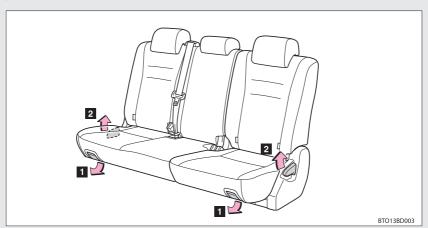
■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。
- 走行中はシート操作をしないでください。

セカンドシート

▶ 回転シート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

▶ チップアップシート装着車

1 前後位置調整

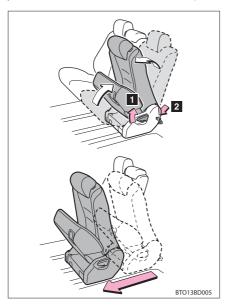
2 リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

▶ 回転シート装着車

リクライニングレバー（1）を引く、または前倒しペダル（2）を踏む

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

▶ チップアップシート装着車（8 人乗り車）

リクライニングレバー（1）を引く、または前倒しペダル（2）を踏む

背もたれが前に倒れて、シートクッションが自動的にはねあがりシートを前方に移動させることができます。

・シートクッションをあげているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

警告

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

●走行中はシート操作をしないでください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

■サードシートへの乗り降りについて（7、8 人乗り車）

●サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

●セカンドシートに乗員がいるときは、サードシートから操作をおこなわないでください。セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

■サードシートへの移動について（7、8 人乗り車）

走行中はサードシートへ移動しないでください。

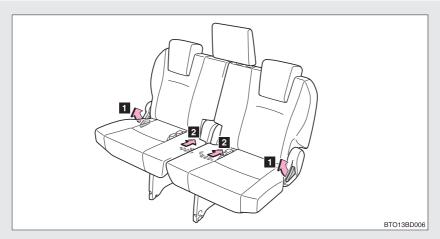
注意

■サードシートへの乗り降りについて

●アームレストを格納してから操作してください。

●リクライニングレバーを引くとシートクッションが自動的にはねあがりますので注意してください。

●サードシートから操作するときは、セカンドシートの足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

サードシート*

1 リクライニング調整（リクライニングレバー）
2 リクライニング調整（スペースアップレバー）

知識

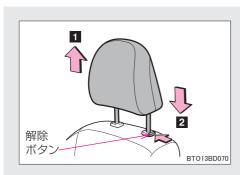
■スペースアップレバーについて

スペースアップレバーはシートクッションの裏側にあります。
スペースアップレバーによるリクライニング調整は、バックドア側から行ってください。

警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。
- 走行中はシート操作をしないでください。

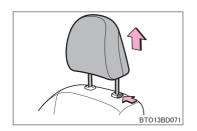
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヘッドレスト

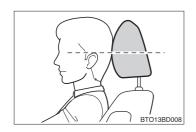
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

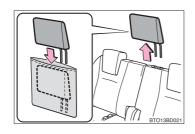
知識

■ヘッドレストの取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■フロントシート、セカンドシート（回転シート装着車）のヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■セカンドシート（チップアップシート装着車）、サードシートのヘッドレストの使用について

使用するときは常に格納位置から上げた位置にしてください。

■サードシート中央席のヘッドレストの収納について

ヘッドレストを取りはずしたときは、収納袋に入れ、ラゲージボックスに収納してください。

⚠警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

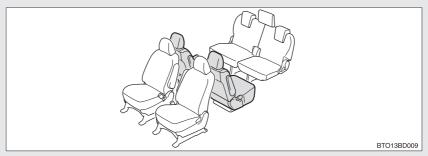
- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

シートは状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。それぞれの説明ページを読んでから行ってください。

■ 回転対面シート

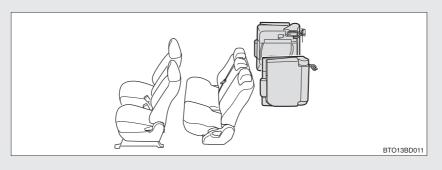
→P. 69

BTO13BD009

■ シートの格納

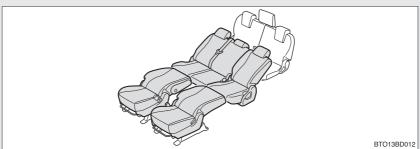
● チップアップのしかた（→P. 71）

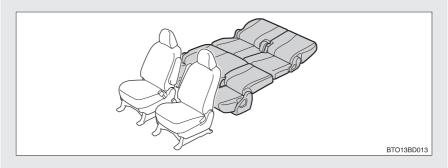
BTO13BD010

● サードシートの格納のしかた（→P. 72）

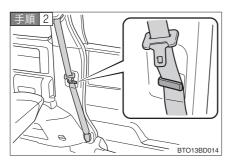
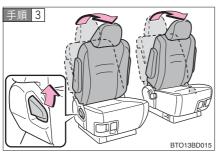
BTO13BD011

■ **フラットシート**

● フロントシートとセカンドシートでフラット状態にするとき
（→P. 74）

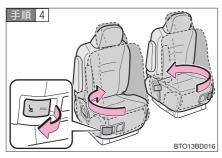
BTO13BD012

● セカンドシートとサードシートでフラット状態にするとき
（→P. 75）

BTO13BD013

回転対面シートのつくり方

▶ 回転シート装着車

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

セカンドシート左右席シートベルトをシートベルトクリップに挟む。

回転させるシートの背もたれを前方に倒す。（→P. 61）

リクライニングレバーを引いて、背もたれを前方に倒します。

シートストッパーが解除され、回転対面操作が可能な状態になります。

回転レバーを引きながら、シートを回転させる。

運転席側は時計まわりに、助手席側は反時計まわりに 180°回転させます。

手順 5 左右席の背もたれを起こし、シートの前後位置を調整する。

手順 6 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。

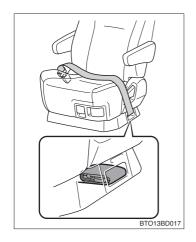
知識

■回転対面シートについて

●回転対面シートにするときは、スライドドアを開けた状態で操作してください。

●シートを回転させるときは、片側ずつ行ってください。

■シートベルトについて

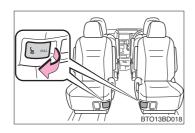
BTO13BD017

●セカンドシートをうしろ向きにして走行するときは、2 点式シートベルトを使用します。

・シート下部に格納されているシートベルトを取り出します。
・通常時に使用する3点式シートベルト用と同じバックルに連結します。

●格納するときは、シート下部に格納します。

・シートベルトをプレートに巻きつけて図のように格納します。

■対面時の回転レバーの位置について

BTO13BD018

対面時は、回転レバーが車両中央側になります。

チップアップのしかた

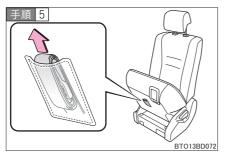
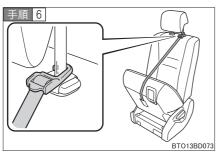
▶ チップアップシート装着車

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 セカンドシート左右席シートベルトをシートベルトクリップに挟む。(→P. 69)

手順 3 リクライニングレバーを引き、背もたれを前方に倒す。(→P. 62)

シートクッションが自動的に跳ねあがり、シートを移動させることができます。

手順 4 背もたれをもとにもどし、シートスライドを固定する。

シートクッション下部の収納ポケットからシート固定バンドを取り出す。

ヘッドレストにシート固定バンドをかけ、シートを固定する。

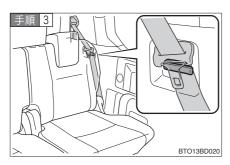
シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

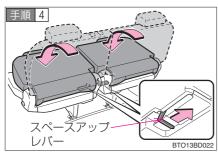
サードシートの格納のしかた

▶ 7、8 人乗り車

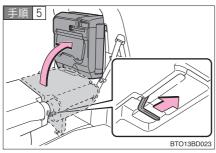
手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 サードシートの左右席のヘッドレストをいちばん下まで下げ、中央席のヘッドレストをはずす。(→P. 65)

はずした中央席ヘッドレストは、収納袋に入れ、ラゲージボックスに収納します。

サードシート左右席シートベルトをシートベルトクリップに挟む。

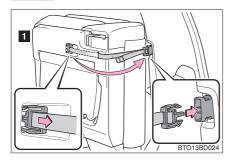
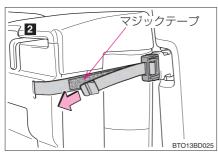
中央席のシートベルトを格納します。

背もたれを前方に倒す。

スペースアップレバーを引いて、背もたれを前方に倒します。

・スペースアップレバーで操作すると、背もたれが倒れ、さらにレバーを引くとロックが解除されシートがはねあがります。

シートをはねあげる。

スペースアップレバーをさらに引いて、シートをはねあげます。

・シートのはねあげと連動して、シート脚部が格納されます。

手順 6 シートを固定する。

1 シートクッション裏側にあるシート固定ベルトを取り出し、ロック部に差し込みます。

2 シート固定ベルトを引っ張りシートを固定します。

ベルトのたるみを取ったあと、マジックテープを密着させ固定します。

手順 7 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。

知識

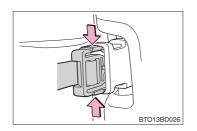
■ラゲージルームについて

サードシートを格納し、セカンドシートを前方に動かすことによりラゲージルームを広げることができます。

■サードシートを格納するときは

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■シート固定ベルトをはずすときは

BTO13BD026

シート固定ベルトの上下のツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納します。

・ シートを押して、ベルトをゆるめた状態でツメを押します。

フロントシートとセカンドシートでフラット状態にするとき

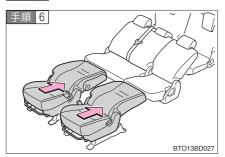
手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる。(→P. 61)

手順 3 フロントシートのヘッドレストをはずす。(→P. 65)

手順 4 フロントシートをいちばん前まで移動させる。(→P. 60)

手順 5 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。(→P. 60)

BTO13BD027

セカンドシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させる。(→P. 60)

フロントシートの前後位置調整レバーを操作して、セカンドシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させます。

セカンドシートとサードシートでフラット状態にするとき

▶ 7、8 人乗り車

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

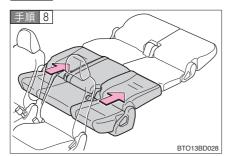
手順 2 フロントシートをいちばん前まで移動させる。（→P. 60）

手順 3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる。（→P. 61）

手順 4 セカンドシートのヘッドレストをはずす。（→P. 65）

手順 5 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。（→P. 61）

手順 6 サードシートのヘッドレストをはずす。（→P. 65）

手順 7 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。（→P. 64）

セカンドシートをサードシートとのすき間がなくなるように移動させる。（→P. 61）

セカンドシートの前後位置調整レバーを操作して、サードシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させます。

知識

■サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

警告

■シートアレンジについて

●以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・必ず平坦な場所でシフトレバーをＰに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
・走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
・シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
・シートのあいだにシートベルトが挟みこまれていないか確認してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれががあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■回転対面シートについて

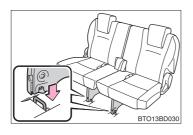
●シートは前向き、またはうしろ向きの状態以外では使用しないでください。これらの状態以外ではシートが固定されません。

●回転対面シートにした状態でチャイルドシートを取り付けないでください。

●うしろ向きシートに座っている人の前に荷物を置いて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、荷物があたり大変危険です。

警告

■シートの格納について

- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。
- 倒した背もたれに人や荷物を乗せて走行しないでください。
- シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。
- シート格納時にシート固定バンド、またはシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは必ずシートを固定してください。

- シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。
- シートをおろすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近づけないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。

■フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

⚠ 注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■回転対面シートについて

●回転操作はスライドドアを開けた状態で行ってください。

●回転操作中は周辺のものにあたらないように注意してください。

●回転操作は左右同時におこなわないでください。

●2 点式シートベルトを使用しないときは格納してください。シートに挟まれたりしてシートベルトが損傷するおそれがあります。

■シートの格納について

●シートをおろすときは、床面に物がないことを確認してから行ってください。

●セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートがあたり格納できないことがあります。

●スペースアップレバーを引くとシート全体が自動的にはねあがりますので注意してください。

●シートベルトを格納せずに操作をすると、シートにあとが残ることがあります。

■フラットシートについて

●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

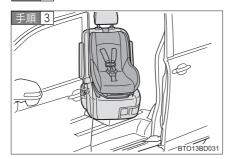
チャイルドケアモード*

チャイルドシートにお子さまを乗せる場合、セカンドシートを外向きに回転させることにより、お子さまの乗車およびシートベルトの着用をスムーズに行うことができます。

チャイルドケアモードを使用するとき

▶ 回転シート装着車

手順 1 車を安全な場所に駐車させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 スライドドアを開ける。

回転レバーを引きながら、シートを回転させる。

回転させると、ストッパーにあたり回転が止まりますが、シートは固定されません。

手順 4 シートを内側に回転させ、シートを固定する。

・ シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■チャイルドケアモードについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は回転（チャイルドケアモード）操作をしないでください。

●チャイルドケアモードのまま走行しないでください。チャイルドケアモードの状態ではシートが固定されません。

●チャイルドケアモードからもとの状態にもどしたときは、確実に固定されていることを確認してください。

●回転（チャイルドケアモード）操作中は可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。

●回転（チャイルドケアモード）操作中はシートの下に手や足などを入れないでください。

⚠注意

■チャイルドケアモードについて

●左右席同時にチャイルドケアモードを使用することはできません。

●チャイルドケアモードを使用するときは、車両周辺の安全を確認して使用してください。

●チャイルドケアモードの状態でスライドドアを閉めないでください。

●回転（チャイルドケアモード）操作を行うときは、ほかのシートの乗員に注意してください。

■チャイルドシートについて

チャイルドケアモードは、ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のチャイルドシートを取りつけているときに使用できます。シートベルトで固定するチャイルドシートを取りつけているときは、シートをもとの状態にもどしたときに、シートベルトのたるみがないか確認してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

BTO13BD032

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方（フロントシート、セカンドシート、サードシート外側席）

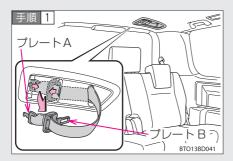
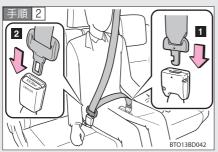
BTO13BD034

1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

■ 着け方、はずし方（サードシート中央席）

プレートをA、Bの順に取り出す

1 プレートA

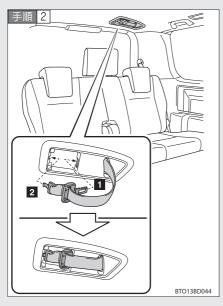
2 プレートB

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

■ 分離・格納のしかた

1 バックルBの解除ボタンを押す

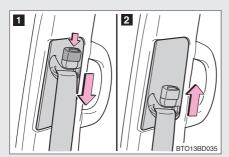
2 キーをバックルAに挿し込む

シートベルトを分離・格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

プレート A、B をホルダーに格納する

1 プレート B

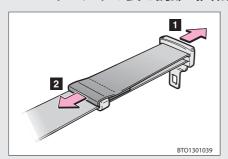
2 プレート A

もとにもどすときは、逆の手順でプレートを取り出し、バックルにプレートを挿し込みます。

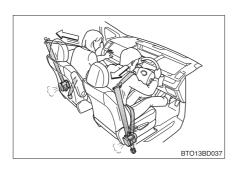
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

■ シートベルトの長さ調節（回転シート装着車）

1 伸ばす

2 縮める

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果の確保に貢献します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

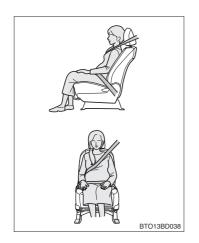
■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

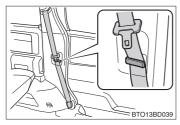
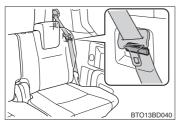
- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 126)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 81)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 81)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■左右席シートベルトについて

シートベルトを使用しないときは、シートベルトクリップに挟んでおいてください。

●セカンドシート

●サードシート

■サードシート中央席のシートベルトが引き出せないときは

シートベルトとホルダーの間に指を入れ、ベルトを矢印の方向に強く引いてからはなすと引き出すことができます。

警告

■シートベルトの着用について

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、左右のプレートとバックルを結合してください。

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

⚠ 警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

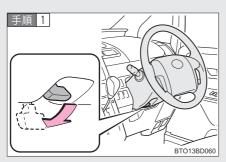
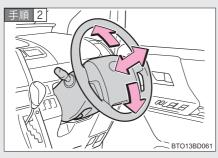
●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを下げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

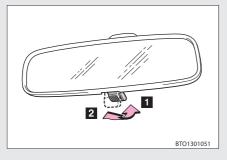
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

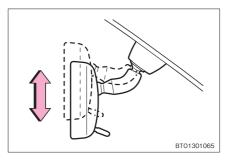
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用状態

2 防眩状態

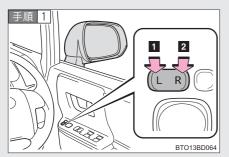
上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

⚠ 警告

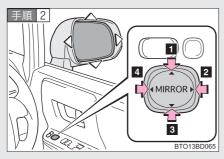
■**運転中の警告**

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

ミラーを選ぶ

1 左

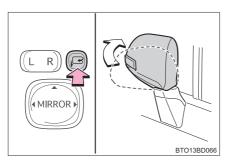
2 右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

■ミラーが曇ったときは*

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→P. 231)

■レインクリアリングミラー*

● 雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる(親水効果)ことにより、後方を見やすくします。

● 次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を 1・2 日間あてると回復します。

- ・ミラーの汚れをふき取ったとき
- ・ミラーが曇ったとき
- ・自動洗車機でワックス洗車したとき
- ・長時間、地下駐車場など日のあたらない場所に駐車していたとき

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているときは*

鏡面が熱くなるので触れないでください。

注意

■ミラーが凍結したとき

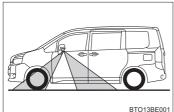
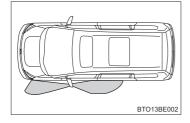
親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

補助確認装置

発進時またはごく低速時に、助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

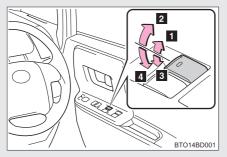
・ミラーの鏡面は固定式ですので鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用し十分注意してください。

パワーウインドウ

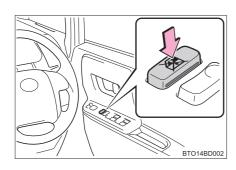
スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める

2 自動全閉※

3 開ける

4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする。

お子さまが誤ってドアガラスやリヤムーンルーフを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ACC ” または “ LOCK ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

警告

■ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。

●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

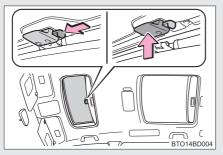
■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

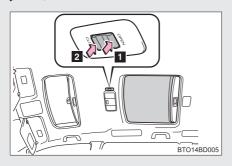
ツインムーンルーフ*

フロントムーンルーフのチルトアップ／ダウン、天井にあるスイッチでリヤムーンルーフを開閉できます。

▶ フロントムーンルーフ

チルトアップ

ボタンを押しながらハンドルを押し上げます。

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。

▶ リヤムーンルーフ

1 開く

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

知識

■リヤムーンルーフの作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

・パワーウインドウのロックスイッチがロック状態のときは作動しません。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■挟み込み防止機能

リヤムーンルーフを閉めるときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■リヤムーンルーフを閉めることができないとき

故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、リヤムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けることで閉めることができます。

■リヤムーンルーフが反転して閉じ切らないときは

下記の操作を行ってください。

CLOSE 側を押し続ける。※

・スイッチを押し続けているあいだリヤムーンルーフが開閉作動を繰り返します。
・リヤムーンルーフが全閉したら復帰操作が完了します。

※ 復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■サンシェード

手動で開閉できます。リヤサンシェードは、リヤムーンルーフを開けると連動して開きます。

■閉め忘れ警告ブザー

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
リヤムーンルーフが完全に閉まっておらず、“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF のとき、運転席ドアを開けると警告音が 1 回鳴ります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
リヤムーンルーフが完全に閉まっておらず、エンジンスイッチが“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が 1 回鳴ります。

警告

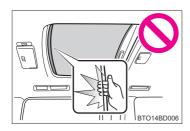
■ムーンルーフを開けているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●リヤムーンルーフを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、リヤムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

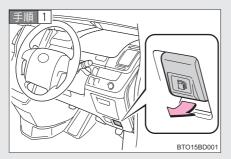
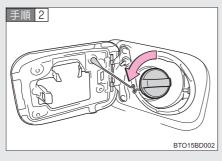
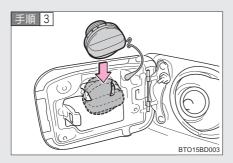
■ 給油する前に

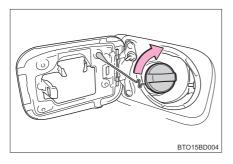
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ LOCK ”にして、ドアと窓を閉めてください。

■ 給油口の開け方

給油口を開ける。

キャップをゆっくり回して開ける。

キャップをハンガーにかける。

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量

約 60 L

■給油口開警告ブザー（パワースライドドア装着車）

●給油口が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。

●助手席側パワースライドドアの自動開閉中に給油口を開けると、ブザーが鳴り、作動を停止し、手動作動に切り替えます。

警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップを緩めたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近づけない
- 気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
  再び帯電する可能性があります。

警告

■**給油時の注意**

●給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示にしたがってください。

■**キャップ交換時の警告**

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●ノッキングが発生する

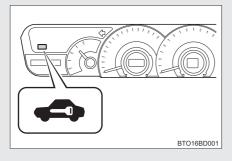
●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム*

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

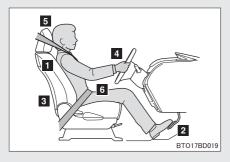
注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 60）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 60）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする

4 SRS　エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 89）

5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 65）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 81）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

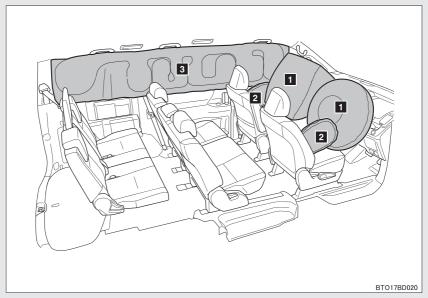
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ*

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS　エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

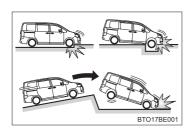
●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS　エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

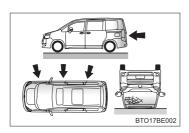
BTO17BE001

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

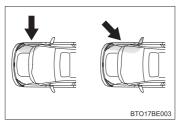
BTO17BE002

●側面からの衝突

●後方からの衝突

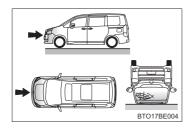
●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

BTO17BE003

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

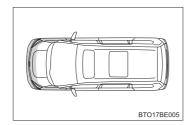
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

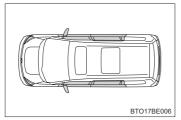
BTO17BE004

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

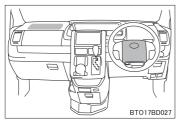
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

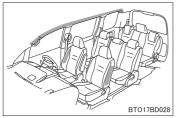
以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17BE005

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17BE006

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17BD027

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグのカバー部が傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO17BD028

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

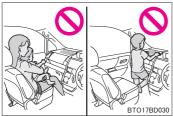
■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転手と乗員全てがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合はとくに危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。(→P. 126)

BTO17BD029

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

BTO17BD030

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

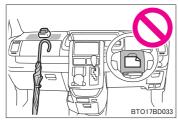
■SRS エアバッグについて

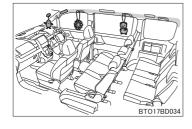
BTO17BD031

●ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

BTO17BD032

●助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

BTO17BD033

●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取りつけたり、置いたりしない。

BTO17BD034

●ドア、フロントガラス、サイドドアガラス、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取りつけない。

警告

■SRS エアバッグについて

- ●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- ●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- ●SRS エアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- ●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取りはずし・取りつけ・分解・修理
- ●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- ●フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取りつけ
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取りつけ

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属する取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安規準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子様の体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+}に相当

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰに相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	セカンドシート	
		7 人乗り車	
	助手席	左右席	左席（サイドリフトアップシート）
0（10kg まで）	×	U	U
0^{+}（13kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	U
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	U

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	セカンドシート		サードシート	
	5、8 人乗り車			
	左右席	中央席	左右席	中央席
0（10kg まで）	U	U	×	×
0^{+}（13kg まで）	U	U	×	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	U	U	L2	×
Ⅱ（15 ～ 25kg）	U	U	L3	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）	U	U	L3	×

● 表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L1：NEO G-Child ISO baby

L2：NEO G-Child ISO tether

L3：Junior seat

×：子供専用シートを取りつけることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF: この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取りつけることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認下さい。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0+ （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取りつけ専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 118）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 120）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1　お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2　サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

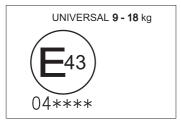
（例 2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 121）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

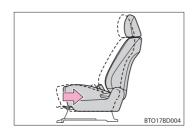
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）
手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク
UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 126）を示すマーク
商品の取りつけ装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げ、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者におたずねください。

警告

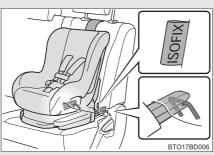
■子供専用シートを使用しない場合

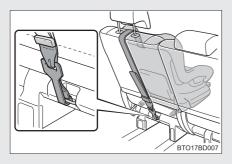
●子供専用シートを使用しないときであってもシートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内の置くことは避けください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取りつけ

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、またはサードシートに取りつけてください。
取りつけ方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

シートベルトによる取りつけ
(→P. 127)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 129)

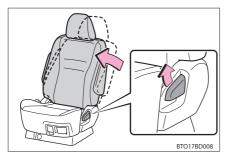
セカンドシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。)

トップテザーアンカー
(→P. 129)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシート左右席に装備されています。

シートベルトで固定する

手順 1 背もたれの角度を調整する。

▶ セカンドシート（7 人乗り車）

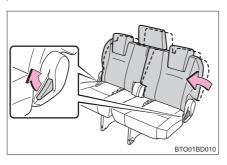
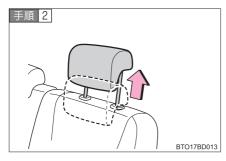
BTO17BD008

チャイルドシートをセカンドシートに取りつけるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。

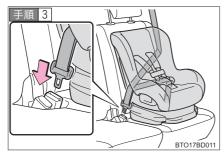
▶ セカンドシート（8 人乗り車）

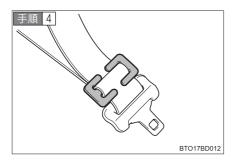
BTO17BD009

チャイルドシートをセカンドシートに取りつけるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。

▶ サードシート

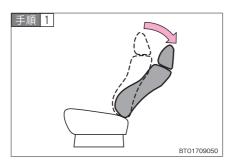
BTO01BD010

チャイルドシートをサードシートに取りつけるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。

ヘッドレストを一番上まで上げる。

図は８人乗り車で代表しています。

チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

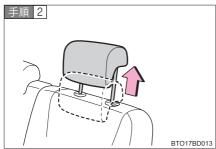
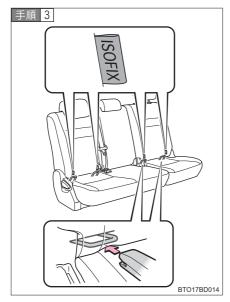
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロッキングクリップ品番：
73119-22010）

取りつけ後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

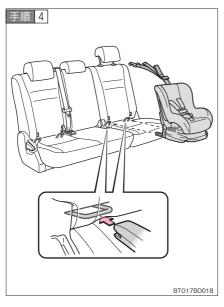
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

背もたれの角度を調整する

チャイルドシートが取りつけられる角度まで倒します。

・背もたれが固定されていることを確認します。

ヘッドレストを一番上まで上げる。

図は 8 人乗り車で代表しています。

固定専用バーの位置を確認する。

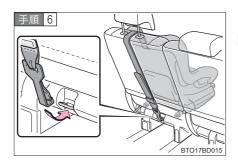
固定専用バーはシートクッションと背もたれのあいだにあります。

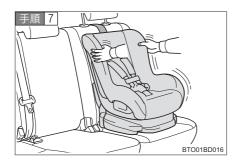
・図は 8 人乗り車で代表しています。

チャイルドシートをシートに取りつける。

チャイルドシートの取りつけ金具をチャイルドシート固定専用バーに取りつけます。

取りつけ方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

背もたれの角度を調整する。

チャイルドシートが安定するまで起こします。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取りつけたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してセカンドシート、またはサードシートに取りつけてください。

●チャイルドシートに座らせていても、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

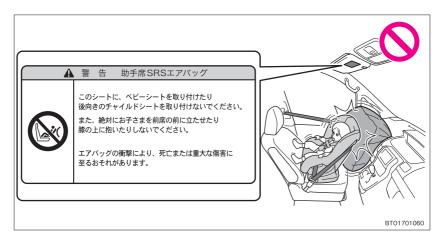
警告

■**チャイルドシートを取りつけるときは**

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているかを確認してください。
- 回転対面シート装着車では、シートをうしろ向きにした状態でチャイルドシートを取りつけないでください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取りつけられない場合は、助手席側のセカンドシートに取りつけてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

警告

■チャイルドシートを取りつけるときは

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。
うしろ向きに取りつけていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取りつける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取りつけてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取りつけるときは

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

運転するときに　2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 145,149）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。（→P. 152）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 156）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 152）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。（→P. 156）

手順 3 シフトレバーを P にする。（→P. 152）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 エンジンを止める。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ LOCK ” にします。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて（S-VSC 装着車）

●ヒルスタートアシストコントロールにより、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。（→P. 187）

■雨の日の運転について

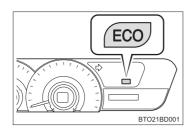
●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取りつけ

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取りつけることはできません。

■環境にやさしい運転をするには

エコドライブインジケーターランプが点灯すると、環境に配慮したアクセル操作をしていることを知らせします。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。（D ポジションで作動します。ただし、パドルシフト装着車はパドルシフト使用時作動しません。）

⚠ 警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●走行中に決してシフトレバーをPまたはRの位置に動かさないでください。
機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。

警告

- 走行中はシフトレバーを N にしないでください。
  N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はエンジンを切らないでください。
  パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 152)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、全ての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
  やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

⚠警告

■滑りやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横滑りするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■駐車するときは

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・スプレー缶からガスが漏れたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を貼りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを止め施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ブレーキをかけるときは

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
  ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■万一脱輪したときは（4WD オートモード作動時）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

注意

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。（→P. 338）

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスアクスル、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、エンジンの始動またはモードを切り替えることができます。

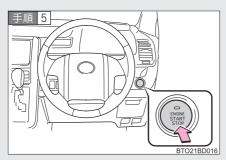
■ エンジンのかけ方

手順 1 正しい運転姿勢（→P. 106）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する。

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏む。

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。
緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す。

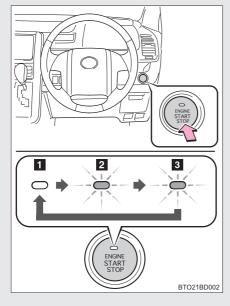
完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

・車両によりスイッチの意匠が異なります。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。
(スイッチを押すごとにモードが切り替わります)

1 OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

アクセサリーコンセントなどの電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

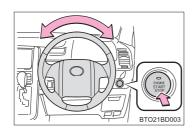
3 イグニッション ON モード

全ての電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※:シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

・車両によりスイッチの意匠が異なります。

知識

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 105)

■" エンジン スタート ストップ " スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、" エンジン スタート ストップ " スイッチが自動で OFF になります。

■クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 20 秒間保持します。
" エンジン スタート ストップ " スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 28

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 351

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 33

■ご留意いただきたいこと

→P. 29

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れないでください。走行中にエンジンが停止すると、予期せぬ事故につながる可能性があります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■ エンジンのかけ方

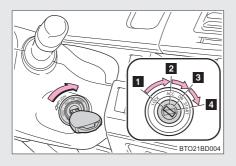
手順 1 正しい運転姿勢（→P. 106）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する。

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏む。

手順 5 エンジン スイッチを“ START ”の位置に回す。

■ エンジン スイッチの位置

1 “ LOCK ” (OFF)

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ ACC ”

アクセサリーコンセントなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

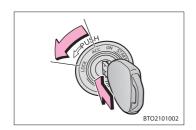
全ての電装品が使用できます。

4 “ START ”

エンジンが始動できます。

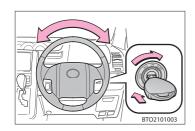
知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”に回すには

BTO2101002

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 2 キーを押し込みながら“LOCK”まで回す。

■ステアリングロックを解除するには

BTO2101003

ステアリングを左右に動かしながら、エンジン スイッチを回してください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが差してあり、エンジンスイッチが“ ACC ”から“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると、警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“ LOCK ”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ ACC ”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

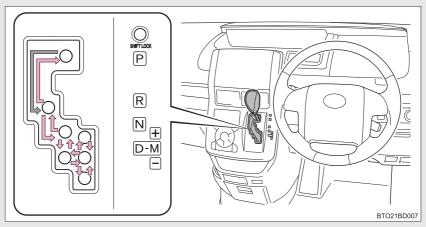
エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターを回さないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

⬅ “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

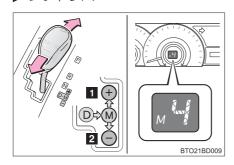
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 (→P. 153)

※　燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

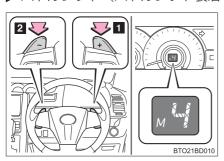
7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーまたはパドルシフトを操作します。

▶ シフトレバー

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。
1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

▶ パドルシフト（パドルシフト装着車）

1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトを操作するごとに 1 段ずつ変速します。
1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

知識

■7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに関する自動変速について

・エンジン回転数があがりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。
・エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■シフトダウン制限警告ブザー
（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 349

■シフトレバーをMにしても､シフトポジション･シフトレンジ表示灯のMが点灯しないときは

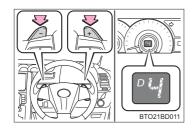
システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■NAVI・AI-SHIFT について

ナビゲーションシステムの機能を利用した､高度な自動変速制御の機能です｡使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■M ポジションで走行中に停車したときは

・停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
・停止後走行するときは M1 からの発進となります。
・停止後は M1 に固定されます。

■一時的なスポーツシーケンシャルシフトマチックモードについて（パドルシフト装着車）

シフトレバーを D の位置で走行中、パドルシフトを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。
一時的なスポーツシーケンシャルシフトマチックモードは以下の状態になると解除されます。

●同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

●パドルシフトのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき

●車両停止状態のとき

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

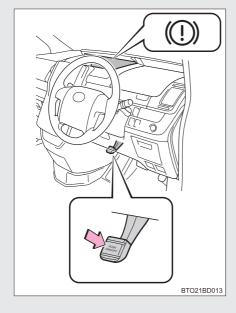
■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

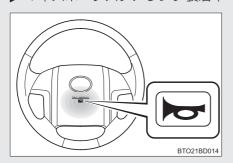
「寒冷時の運転」（→P. 211）の記載を参照してください。

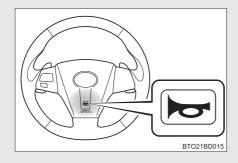
警告

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

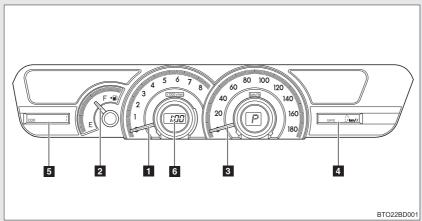
ホーン（警音器）

▶ 4 本スポークステアリング装着車

ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

▶ 3 本スポークステアリング装着車

知識

■ハンドルの位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 89）

計器類

オプティトロンメーター装着車は“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 燃料計

燃料残量を示します。

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 ドライブモニター

→P. 165

5 オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整画面

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

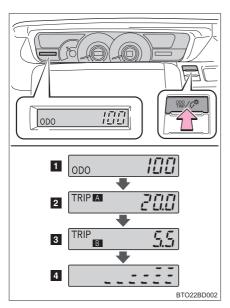
● メーター照度調整画面

メーター照度の明るさを調整できます。

6 時計

→P. 167

表示切り替えボタン

ボタンを押すごとに以下のように切り替わります。

1 オドメーター

2 トリップメーター A※1

3 トリップメーター B※1

4 メーター照度調整画面※2

※1 長押しで 0 にもどります。

※2 長押しで照度を調整できます。

知識

■メーター照度調整画面について

以下のときに表示されます。

・ライトスイッチの状態に関係なく表示されます。（オプティトロンメーター装着車）
・車幅灯点灯時、表示されます。（オプティトロンメーター非装着車）

■メーター照度の調整について

5 段階で明るさのレベルを調整することができます。

・車幅灯消灯時と点灯時でそれぞれ明るさレベルを設定できます。（オプティトロンメーター装着車）
・車幅灯点灯時に明るさレベルを設定できます。（オプティトロンメーター非装着車）

■減光について（コンライト装着車）

周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メータ照明が減光されます。
周囲が明るいとき（昼間など）車幅灯を点灯しても、メーター照明は減光されません。

注意

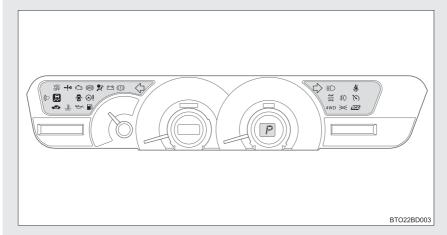
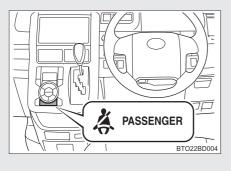
■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。

●水温警告灯が赤色に点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 357）

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

▶ センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 155）

尾灯表示灯*（→P. 168）

※ 2
水温表示灯

※ 1
VSC OFF 表示灯*（→P. 184）

フロントフォグライト表示灯*（→P. 172）

クルーズコントロール表示灯*（→P. 179）

※ 1
4WD オートモード表示灯*（→P. 178）

※ 1
（点滅）

スリップ表示灯*（→P. 183）

セキュリティ表示灯*（→P. 105）

ヘッドライト上向き表示灯（→P. 168）

※ 1
エコドライブインジケーター（→P. 137）

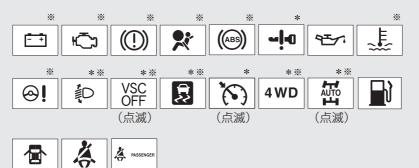
シフトポジション・シフトレンジ表示灯（→P. 152）

※ 1 作動確認のために“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 エンジン冷却水温が低いときは、青く点灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。（→P. 329）

※作動確認のために“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。
点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

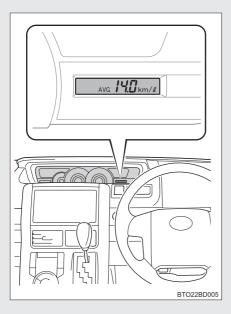
⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバックなどの安全装置の警告灯が、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ドライブモニター

ドライブモニターは、以下のような情報を表示します。

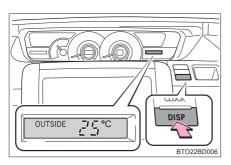
BTO22BD005

● 外気温表示　(→P. 165)

外気温を表示します。

● トリップインフォメーション　(→P. 166)

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

表示切り替え

BTO22BD006

表示を切り替えるには、DISP ボタンを押します。

● 外気温

外気温を表示します。

－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

● 航続可能距離

RANGE 345 km

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均燃費

AVG 10.0 km/ℓ

リセットしてからの平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

● 瞬間燃費

20.0 km/ℓ

現在の瞬間燃費を表示します。

・ 停車しているときは、－－ . － km/l 表示になります。
・ 走行状態により、最大 99.9km/l 表示になります。

知識

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うとき、以下のデータはリセットされます。

●平均燃費

●航続可能距離

■外気温表示について

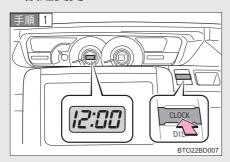
次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

時計

現在の時刻を示します。

■ 設定変更

CLOCK ボタンを長押しし、時表示を点滅させる。

手順 2 時表示が点滅中に CLOCK ボタンを押して " 時 " を設定する。

5 秒経過すると分表示が点滅します。

手順 3 分表示が点滅中に CLOCK ボタンを押して " 分 " を設定する。

5 秒経過するともとの時計表示にもどります。

知識

■正時合わせについて

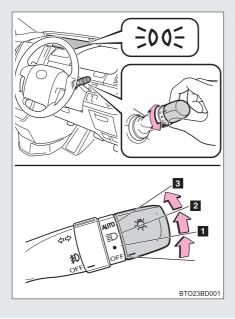
CLOCK ボタンを短押しすると、正時に合わせることができます。

- ●0 ～ 29 分は切り下げられます。
- ●30 ～ 59 分は切り上げられます。
- ●（例）1：00 ～ 1：29 の場合は、1：00 に、1：30 ～ 1：59 の場合は、2：00 になります。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うとき、時計の設定はリセットされます。

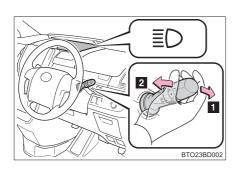
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明*を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯*

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）のとき

ハイビームにする

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

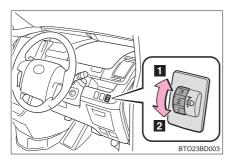
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

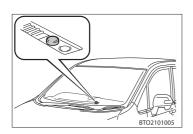
▶ 7、8 人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	G's を除く	G's
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
運転者と助手席、およびサードシートに 3 名乗車	なし	2	1
全乗員	なし	3	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3	1.5
運転者	ラゲージルーム満載時	4	2

▶ 5 人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と 助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1
全乗員	ラゲージルーム 満載時	1
運転者	ラゲージルーム 満載時	3

知識

■ライトセンサー*

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ライト消し忘れ防止機能

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー＆スマートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”（スマートエントリー＆スマートシステム非装着車）にしてフロントドア、またはスライドドアを開けると車幅灯などが自動で消灯します。
再びライトを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スマートシステム装着車)、またはエンジン スイッチ（スマートエントリー＆スマートシステム非装着車）を“ON”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■ライト消し忘れ警告ブザー

ライト消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

● “エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチが“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）のときに働きます。
● ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

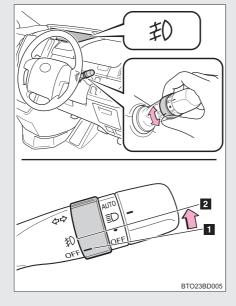
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。

1 消灯

2 フォグライト点灯

知識

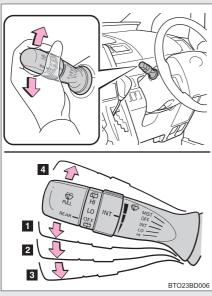
■点灯条件

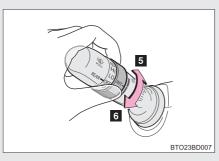
ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

BTO23BD006

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

BTO23BD007

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■**窓ガラスが乾いているときは**

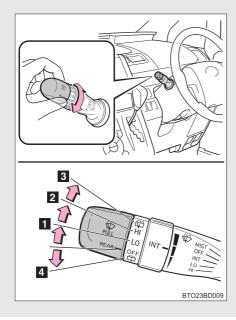
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

1 間欠作動（LO）

2 通常作動（HI）

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

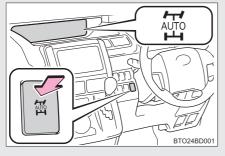
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

4WD オートモードスイッチ*

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じてＦＦ（前輪駆動）走行と４ＷＤ（４輪駆動）走行を自動的に切り替えます。

４ＷＤ オートモードを使用する。

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。
再度押すと解除されます。

知識

■4WD オートモード表示灯について

● 4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。
表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま以下の対応を行ってください。

・ 表示灯が消灯するまで車速を落とす。
・ 表示灯が消灯するまで停車する。（エンジンは停止しない）

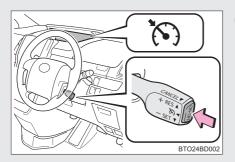
● 4WD システムに異常が発生したときには、4WD オートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの位置にかかわらず FF モードとなります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

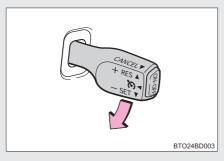
クルーズコントロール＊

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

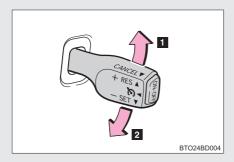
■ 速度を設定する

BTO24BD002

ON-OFF スイッチを ON にする

OFF にするには再び ON-OFF スイッチを押します。

BTO24BD003

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

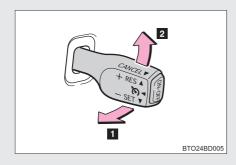
＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変える

1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1.5km/h ずつ）できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。

知識

■設定条件について

- シフトレバーが D または M の 4、5、6、7 のとき設定できます。
- 車速は約 40km/h から 100km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■定速走行の自動解除

走行条件によって以下のようなとき自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以下に低下したとき

●速度が約 40km/h 以下になったとき

●車が横滑りして S-VSC *が働いたとき

■定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチを OFF にしてください

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路、積雪路などの滑りやすい路面

●急な下り坂

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ S-VSC（Steering-assisted Vehicle Stability Control）*

ABS、TRC、S-VSC と EPS を協調して制御します。
滑りやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）*

滑りやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール*

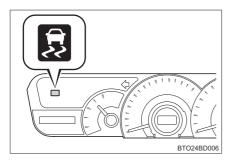
上り坂や滑りやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。
→P. 187

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

S-VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

BTO24BD006

車両が横滑りしそうになったとき、前輪が空転したとき、ヒルスタートアシストコントロールを作動させ坂道発進をしたときは、S-VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

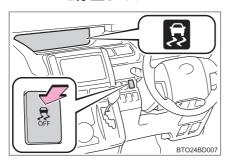
S-VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

TRC や S-VSC を停止するには

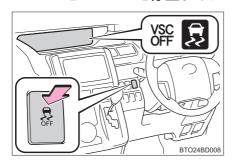
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や S-VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力があがらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、S-VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

BTO24BD007

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と S-VSC を停止するには

TRC と S-VSC を停止するには停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

スリップ表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

知識

■TRC や S-VSC の自動復帰について

TRC や S-VSC を作動停止したあと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチを “ LOCK ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にすると自動的に TRC と S-VSC は作動復帰状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■TRC と S-VSC OFF の作動制限

TRC と S-VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS、ブレーキアシスト、S-VSC、TRC の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨で濡れた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

S-VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■TRC や S-VSC を OFF にするときは

TRC や S-VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、S-VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や S-VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 369）
異なったタイヤを装着すると、ABS、S-VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

ヒルスタートアシストコントロール*

急な上り坂や滑りやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

● ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。

● ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。

● ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度）その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは以下の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

● 以下の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。

・ シフトレバーが P 以外の位置のとき
・ パーキングブレーキがかかっていないとき
・ アクセルペダルを踏んでいないとき

● スリップ表示灯が点灯し、VSC OFF 表示灯が点滅しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・シフトレバーを P の位置にしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき

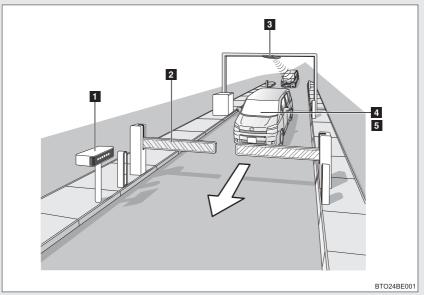
警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ETC システム*

ETC（Electronic Toll Collection）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。
路側無線装置と車両の ETC ユニットとのあいだで通信を行い、料金はお客様が登録された ETC カードの引き落とし口座から後日引き落とされます。

1 路側表示器

料金所の ETC レーンに設置されています。
進入車両に対し、メッセージが表示します。

2 発進制御装置（開閉バー）

料金所の ETC レーンに必要に応じて設置されています。
通過車両の発進・停止を制御するもので、通信が正常に行われると開きます。

3 路側無線装置

料金所の ETC レーンに設置されています。
料金精算のため、車両の ETC ユニットとの通信を行うためのアンテナです。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

4 ETC ユニット

車両に装着されています。
ETC カードに格納されている、料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

5 ETC カード

ETC ユニットに装着する、IC チップを搭載した ETC ユニット用カードです。
IC チップに、料金精算に必要なデータを保持します。

知識

■メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では

タッチパネルでの各種設定操作や、ディスプレイ表示によるインフォメーションなど、ナビゲーションシステムと連動した機能を利用できます。
詳しくは別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

警告

■ご利用の前に

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差し、および ETC ユニットの操作を極力しないでください。
走行中の操作は、ハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

注意

■その他のサービス（スマート IC など）ご利用時は

その他、ETC ユニットを用いたサービス（スマート IC など）には、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

注意

■ETC カードを挿入する前に

ETC カードの有効期限切れにご注意ください。ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちの ETC カードに記載された、有効期限をあらかじめ確認してください。

■ETC カードを挿入したあとに

●ETCを利用する際は、あらかじめETCカードが確実にETCユニットに挿入されていることと、ETC ユニットが正常に作動していることを確認してください。

●ETC ユニットが ETC カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前での ETC カードの挿入はエラーの原因となる場合があります。

■料金所を通過するときは

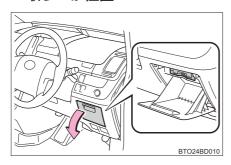
●ETC レーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約 20km/h 以下の安全な速度で進入してください。

●ETC レーンに設置されている開閉バーは、ETC ユニットと路側無線装置のあいだの通信、あるいは ETC ユニットと ETC カードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますのでご注意ください。

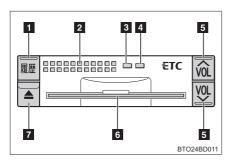
●ETC レーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

ETC ユニット

■ 取りつけ位置

BTO24BD010

運転席ロアボックス内にあります。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチを“ACC”または“ON”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)にすると、ETC ユニットの電源が入ります。

■ 各部の名称

BTO24BD011

1 利用履歴確認スイッチ

2 スピーカー部

3 緑ライト

4 橙ライト

5 音量調整スイッチ

6 ETC カード挿入口

7 イジェクトスイッチ

知識

■ETC を利用する前に

はじめて ETC システムを利用するときは、あらかじめ ETC ユニットのセットアップ手続きが必要です。

●詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●セットアップ手続きには、別途費用が必要です。

■適合シールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼りつけられているシールはその証明ですので、はがさないでください。
また、本製品を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

■フロントガラスの汚れや積雪がひどい場合は

それらを取り除いてください。

■お車のナンバープレートが変更になった場合は

再度 ETC ユニットのセットアップ手続きが必要になりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■取り扱いの注意

●路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ETC ユニットのアンテナ（インストルメントパネル中央付近に内蔵されています）上方には物を置かないでください。

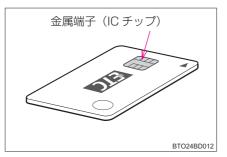
●ETC ユニットの内部に異物などを入れないでください。ETC ユニットが故障するおそれがあります。

●ETC ユニットに衝撃を与えないでください。ETC ユニットが故障、破損するおそれがあります。

●ぬれた手で ETC ユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。ETC ユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。

●汚れたときは、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどは絶対に使用しないでください。ETC ユニットが変形・故障するおそれがあります。

●車両1台に対して複数のETCユニットを取りつけると、ゲートの開閉バーが開かないことがあります。

ETC カードについて

ETC カードの取得には、お客様自身による、別途申し込みが必要です。

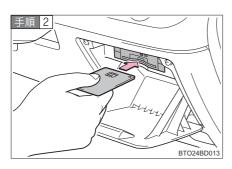
⚠ 注意

■**取り扱い上の注意**

- ETC カードの取り扱いについては、ETC カード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。
- ETC カードには有効期限があります。
  有効期限内の ETC カードをご利用ください。有効期限切れ ETC カードでは、開閉バーが開きません。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってある ETC カードや金属端子（IC チップ）が汚れている ETC カードは使用しないでください。
  ETC ユニットが正常に作動しなくなったり、ETC カードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

ETC カードを挿入する

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にする

ETC ユニットの緑ライトと橙ライトが同時に点灯し、しばらくすると消灯します。

運転席ロアボックスを開け、ETC カードを挿入する

図のように正しい向きでしっかりと差し込みます。

「ピッ」とブザーが鳴り、緑ライトが点滅します。

手順 3 ETC カードが認証される

正しく認証された場合：

音声案内※	**「ポーン ETC カードが挿入されました」**
ETC ユニット	緑ライトが点灯したまま

ETC システムは、この状態でご利用ください。

※ ETC と連動するナビゲーションシステム装着車では、エンジン始動後、すぐに ETC カードを挿入すると音声案内および画面表示がされないことがありますが、緑ライトが点灯していて有効期限内の ETC カードであれば、ETC システムを利用することができます。

正しく認証されなかった場合：

橙ライトが点滅し、統一エラーコード（→P. 205）を音声でお知らせします。

手順 4 運転席ロアボックスを閉じる

知識

■橙ライトが点灯しているときは

ETC ユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。

■有効期限切れ・解約済みの ETC カードを挿入したときは

●エラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

●ETC と連動するナビゲーションシステム※を装着されている場合、有効期限切れ通知機能が働きます。(→P. 198)

※装着されたナビゲーションシステムの機種によっては、通知が行われない場合があります。

注意

■緑ライトが点滅しているときは

ETC カードを抜かないでください。
ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

■エラーが発生したときは

ETC ユニットや ETC カードにエラーが発生した場合は、橙ライトが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」(→P. 205)の記載にしたがって対処してください。

■エンジン始動時にエラーが発生したときは

いったんエンジンを停止させ、再度始動してみてください。
エラーが解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ETC カード挿入時にエラーが発生したときは

いったん ETC カードを抜き、挿入方向を確認して、再度差し込んでみてください。エラーが解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ETC カードを抜き取る

手順 1 安全な場所に停車する

手順 2 エンジンを停止する前に ⏏ を押す

ETC カードを抜き取る前にエンジンを停止すると。「カード抜き忘れ警告」でお知らせします。

手順 3 ETC ユニットから ETC カードを抜き取る

有効期限切れ通知

ETC と連動するナビゲーションシステム※1 を装着されている場合、ETC カードを挿入したとき、または ETC カード挿入状態で次の操作をしたとき、下表のように有効期限切れ通知が行われます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

" エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを " ACC " または " ON " にしたとき

ETC カードの状態	音声案内※2	画面表示※2
有効期限まで 1ヶ月以内の場合	**「ポーン ETC カードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください」**	**「ETC カードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください」**
有効期限切れの場合	**「ポーン ETC カードの有効期限が切れています」**	**「ETC カードの有効期限が切れています」**

※1 装着されたナビゲーションシステムの機種によっては、通知が行われない場合があります。

※2 エンジン始動後、すぐに ETC カードを挿入すると音声案内および画面表示がされないことがありますが、緑ライトが点灯していて有効期限内の ETC カードであれば、ETC システムを利用することができます。

知識

■ETC カードの盗難を防ぐために

ETC カードを残したまま、お車から離れないでください。

■カード抜き忘れ警告

ETC カードを抜き取る前にエンジンを停止すると、「**ピー カードが残っています**」という音声でお知らせします。

- 音量を 0 に設定した場合は、「**ピー**」というブザー音のみでお知らせします。
- この機能を働かないようにする（OFF にする）ことができます。

■カード抜き忘れ警告の設定変更

ETC カードが挿入され、緑ライトが点灯している状態で と を同時に押し続ける。（約 2 秒間）

- 操作をするごとに「**ピッピッ**」と音がし、機能のON／OFFが切り替わります。
- 操作は、安全な場所に停車した上で行ってください。

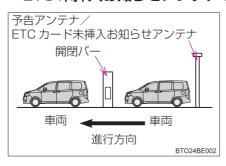
注意

■お車から離れるときは

ETC カードを車内に残したままにしないでください。車内の温度上昇により、ETCカードが変形したり、ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。

ETC 利用中のライト表示と音声案内について

車両走行中は、状況に応じて ETC ユニットのライト表示が変わり、併せて音で通知されます。

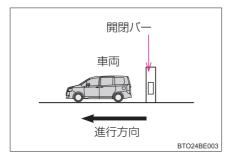
■ ETC ゲート（入口）、検札所、予告アンテナ、ETC 未挿入お知らせアンテナを通過したとき

通信が正常に行われた場合：

ライト表示	緑ライトが点灯したまま
通知音※	「**ピンポン**」

※ ETC カード未挿入アンテナを通過したときは、通知されません。

通信が正常に行われなかった場合:

橙ライトが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」(→P. 205)の記載にしたがって対処してください。

■ ETC ゲート（出口／精算用）を通過した

通信が正常に行われた場合：

ライト表示	緑ライトが点灯したまま
通知音	「**ピンポン**」
音声案内	通行料金を通知

通信が正常に行われなかった場合:

橙ライトが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」(→P. 205)の記載にしたがって対処してください。

知識

■通知音について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1 つの ETC ゲートで 2 回通知されることがあります。

■道路設備について

- 予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ゲートを利用できるかどうかを ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- ETC カード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前に設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ユニットに正しく ETC カードが挿入されていない場合に、ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- 予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

■ETC カードを挿入しないまま走行したときは

ETC カードが未挿入の状態で、予告アンテナや ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ライトが点滅し、「**ピー ETC をご利用できません エラー 01** ※」という音声でお知らせします。これは、ETC システムが利用できないことを通知するもので、ETC ユニットの故障ではありません。

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、「**ポーン ETC ゲートを通過できません**」または「**ポーン ETC カードが挿入されていません**」という音声になります。

■通行料金の通知について

- 通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
- 他のナビ案内などと重なったときは、通行料金が案内されないことがあります。※

  ※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

注意

■走行時の注意

●走行中、運転者は ETC ユニットのライト表示を見ないでください。

●ETC ゲート進入時は、十分減速してください。

●ETC ゲート通過時は、ETC ゲート付近に表示されている案内にしたがって走行してください。

●ETC ゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示にしたがってください。

●その他、道路事業者の発行する利用方法にしたがってください。

●必ず、ETC ゲート（入口）で使用した ETC カードで、ETC ゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。

●ETC カード未挿入お知らせアンテナ、ETC ゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

利用履歴の確認

有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。
停車中で、ETC カードが挿入され、緑ライトが点灯しているときに利用できます。

手順 1 履歴 を押す

最新の利用履歴が案内されます。

手順 2 履歴をさかのぼるときは 履歴 を押す

押すごとに古い利用履歴に切り替わります。

最も過去の履歴の次は、最新の履歴にもどります。

案内終了後、約 1 秒以上たってから 履歴 を押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。

知識

■利用履歴について

●利用履歴はETCカードに記録されるため、最大記録件数は使用するETCカードにより異なります。（最大 100 件）

●利用履歴の最大記録件数を超えた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。

●利用履歴がない場合は、「**利用履歴はありません**」と案内されます。

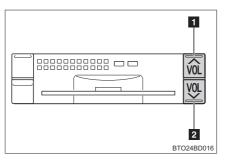
●利用日の情報が正しくない場合は、「**利用日付は不明です**」と案内されます。

●通行料金の情報が正しくない場合は、「**料金は不明です**」と案内されます。

注意

■使用時の注意

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

音量調整

1 音量 大

2 音量 小

調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1～8	「**音量○○です**」
0	「**音声案内を中止します**」

知識

■音量調整について

●音量調整は、以下のような案内に有効です。

・未セットアップ状態の通知
・エラー発生時のブザー音
・カード抜き忘れ警告
・利用履歴の確認
・音量調整時の案内

●音声案内を中止（音量 0）に設定してあっても、エラー発生時には音量 1 で出力されます。

●ETC ユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ETC ユニットを消音（音量 0）にすると出力されません。

記録された統一エラーコードの確認

ETC ユニットは、最後に発生した統一エラーコード（→P. 205）を記録しています。次の手順で確認できます。

手順 1 ETC カードを抜く（カードが挿入されている場合のみ）

手順 2 履歴 を押し続ける（約 2 秒以上）

最後に発生した統一エラーコードを音声でお知らせします。

統一エラーコード一覧

ETC の利用中にエラーが発生したときは、問題の概要とともに、統一エラーコード（エラー 01 ～ 07）を音声でお知らせします。
次の表にしたがって、それぞれ対処してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
01	ETC カード挿入異常	・通信時に ETC カードが挿入されていない ・ETC カードの挿入状態が悪い	ETC カードの挿入状態をご確認のうえ、再度挿入してください。
02	データ処理異常	・ETC カードへの読み出し、書込みエラー ・ETC カードと ETC ユニットの接点不良（ETC カードアクセス中の瞬断） ・読出し中、書込み中カードのイジェクト	**ETC カード挿入時：** 挿入された ETC カードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。 **ETC ゲート通過前：** 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。車両停止後、料金所係員の指示にしたがってください。 **ETC ゲート通過後：** 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。料金所係員のいる一般レーン（ETC ／一般共用レーンを含む）へ進入してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
03	ETC カード異常	・ETC　カードが故障している ・ICカード以外のカードが挿入され、通信しない ・ETC カードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください
04	ETC ユニット故障	自己診断の結果、ETC ユニットの故障と判断された	再度エンジンを始動してみてください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	ETC カード情報の異常	・ETC　カードとの認証エラー ・ETC　カード以外の　IC カードが挿入 ・認証中 ETC カードのイジェクト ・未セットアップ状態での ETC カードの挿入	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
06	ETC ユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ETC ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。 料金所係員の指示にしたがってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了した	

知識

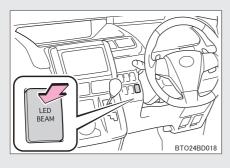
■この場合は異常ありません

●ETCカード未挿入お知らせアンテナ等と通信した際、統一エラーコード(07)と通知されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。

●ETC ユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムなどが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード（01）または（07）と通知されることがありますが、ETC ユニットのこしょうではありません。

■ETC ゲート通過後にエラーが発生した場合

ETC カードを抜くと、エラー音が停止します。再度、ETC カードを挿入すると、「**ポーン ETC カードが挿入されました**」の音声と同時に緑ライトが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

LED イルミネーションビーム*

オン / オフ

オンにするとフロントバンパーのLED イルミネーションビームが点灯します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で LED イルミネーションビームを長時間点灯しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意して下さい（タイヤについて：→P. 280）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

●取りつけ・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

・ 安全に作業できる場所で行う
・ 前 2 輪に取りつける
・ タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう
・ 取りつけ後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしを行う

●18 インチタイヤにはタイヤチェーンは装着できないため、スノーキャップを使用してください。

・ スノーキャップについては、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■**タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急ハンドル、急ブレーキを避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

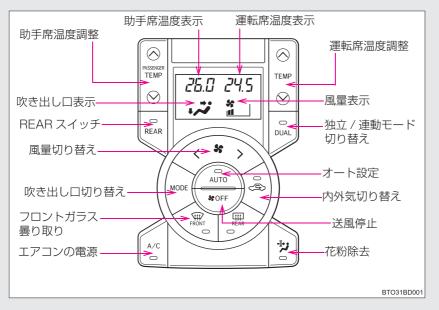
3-2. 3 分割デッキボードの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

フロントエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1 AUTO を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 設定温度を上げるときは TEMP の∧を、下げるときは∨を押す

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立して変えることができます。

を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

を押す

手順 3 運転席側は

、助手席側は

を押し、温度を調整する

再び

を押すと、連動モードになります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は

、助手席側は

を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の

を押すと独立モードに切り替わります。

■ 風量をかえるには

の ＜（減）か ＞（増）を押す

風量は７段階に調整できます。

送風を止めるときは

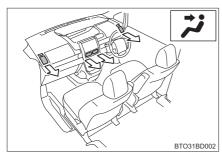
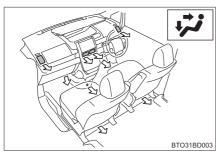
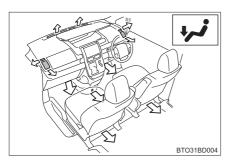
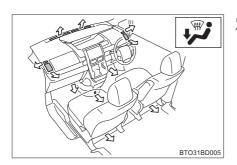
を押す

3

室内装備の使い方

■ 吹き出し口を切り替えるには

を押す

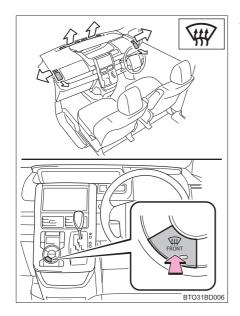
押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

フロントガラスの曇りを取るには

 を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

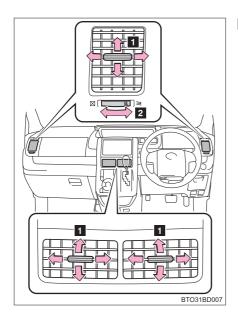
 を押す

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に（外気温が低いときは 約１分後に） を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

プラズマクラスター® を使うには*

ファンが作動すると自動的にプラズマクラスターが作動します。
モードは自動で切り替わります。プラズマクラスター® イオンのときは CLEAN、マイナスイオンモードのときは ION の表示が表示されます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。

● を押した直後しばらく送風が停止する

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わることがあります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押してもエアコンは作動しません。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

- ●内気循環に切り替わらない
- ●エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■プラズマクラスター® について*

- ●運転席側吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- ●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

■プラズマクラスターについて*

●プラズマクラスター® は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●運転席側吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

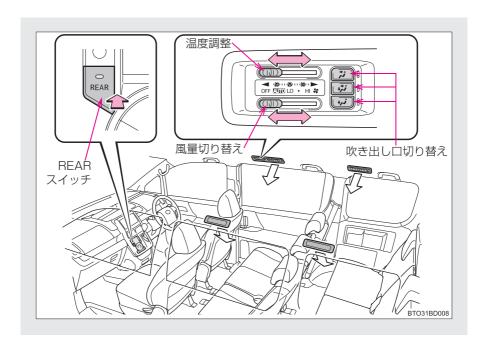
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤエアコン（リヤエアコン装着車）

温度調整
風量切り替え
吹き出し口切り替え
REAR
スイッチ
BTO31BD008

お好みの設定で使うとき

■ リヤエアコンのON・OFFを切り替えるには

フロントエアコン操作部にある を押す

スイッチを押すたびにリヤエアコンの ON・OFF が切り替わります。リヤエアコンを ON にしていると作動表示灯が点灯します。

■ AUTO設定で使うには

風量切り替えツマミを AUTO の位置にする

風量が自動で切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは温度調整ツマミを右へ、下げるときは左へ動かす

■ 風量をかえるには

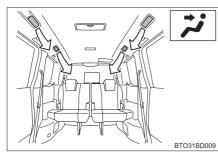
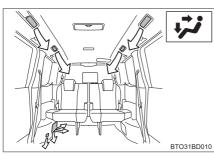
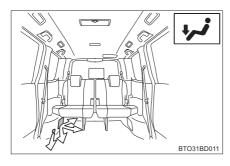
風量切り替えツマミを右（増）か左（減）へ動かす

風量は“LO”から“HI”の間で3段階に調整できます。

■吹き出し口を切り替えるには

▶ 7、8 人乗り車

吹き出し口切り替えスイッチを押す

押したスイッチの表示灯が点灯し、吹き出し口が切り替わります。吹き出し口は以下の状態を示しています。

上半身に送風

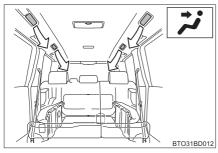
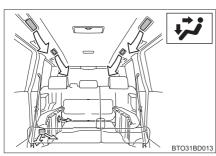
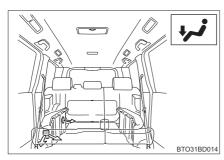
上半身と足元に送風

足元に送風

■吹き出し口を切り替えるには

▶5 人乗り車

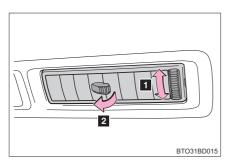
吹き出し口切り替えスイッチを押す

押したスイッチの表示灯が点灯し、吹き出し口が切り替わります。吹き出し口は以下の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元、ラゲージルームに送風

足元とラゲージルームに送風

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 風向きの調整と吹き出し口の開閉

知識

■フロントメインスイッチについて

フロントエアコン操作部のメインスイッチを押すことにより、リヤエアコンの作動・停止をすることができます。

■エアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■エアコンの臭いについて

●リヤエアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時はフロントエアコンを外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、以下のことに注意してください。

- ●吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。
- ●吹き出し口にデッキボードや、脱着式テーブルの脚を近づけると熱くなることがあります。(5 人乗り車)

リヤクーラー（リヤクーラー装着車）

REAR COOLER
OFF LO • • HI
REAR
REAR
スイッチ
風量切り替え
BTO31BD016

お好みの設定で使うとき

■ リヤクーラーの ON・OFF を切り替えるには

フロントエアコン操作部にある

を押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON･OFF が切り替わります。リヤクーラーを ON にしていると作動表示灯が点灯します。

■ 風量をかえるには

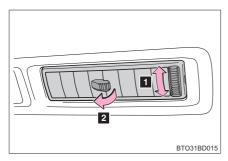
風量切り替えツマミを右（増）か左（減）へ動かす

風量は 4 段階に調整できます。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 風向きの調整と吹き出し口の開閉

知識

■フロントメインスイッチについて

フロントエアコン操作部のメインスイッチを押すことにより、リヤクーラーの作動・停止をすることができます。

■リヤクーラーの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは 、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■リヤクーラーの臭いについて

●リヤクーラ使用中に、車室内外のさまざまな臭いがリヤクーラー装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

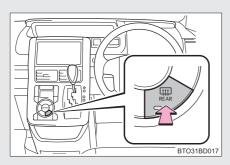
●リヤクーラー始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時はフロントエアコンを外気導入にしておくことをおすすめします。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤクーラーを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ミラーヒーターについて

ミラーヒーター装着車は、リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

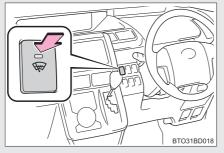
ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー＊

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

オン／オフ

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

3 分割デッキボード*

3分割デッキボードの組み合わせによりリヤスペースのアレンジを行うことができます。それぞれの説明ページを読んでから行ってください。(5人乗り車)

■ 標準モード

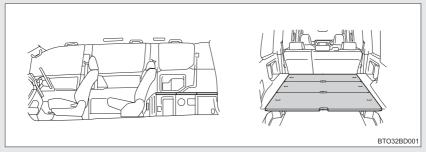
→P. 236

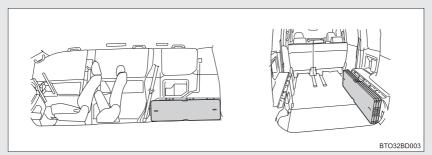
BTO32BD001

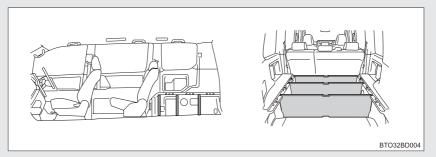
■ トールラゲージモード

→P. 236

BTO32BD002

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ビッグラゲージモード

→P. 236

■ セパレートラゲージモード

→P. 238

■ ボックスモード

→P. 238

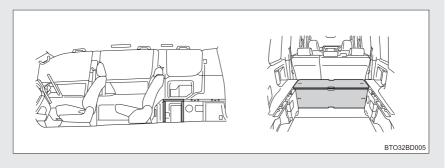
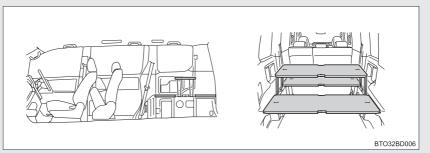
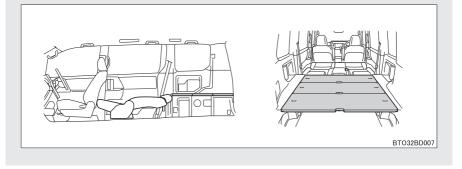
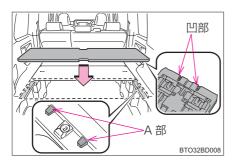
■ テーブルモード

→P. 239

BTO32BD006

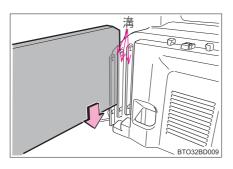
■ ベッドモード

→P. 240

BTO32BD007

標準モードで使うには

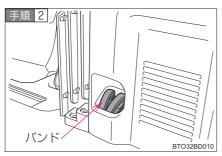
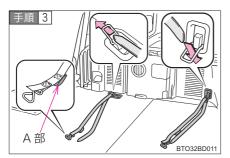
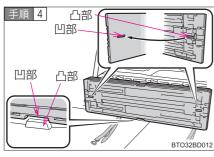
デッキボードの凹部を A 部に確実にはめ込んで固定する。

3 枚並べるとリヤスペースを上下に分けることができます。

トールラゲージモードで使うには

３枚のデッキボードを車両前側の溝に差し込んで固定する。

ビッグラゲージモードで使うには

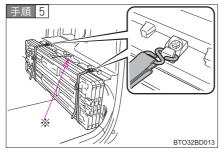
手順 1 セカンドシートを前方に移動する。

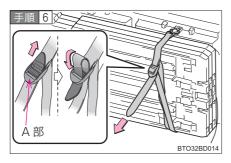
手順 2

バンドを収納場所から取り出す。

バンドをロープフック（2 箇所）に通す。

バンドは、フック部分を手前にして持ち、A 部がバンドの裏側にくるように通します。

・バンドがねじれていないことを確認してください。

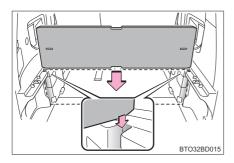
デッキボードを 3 枚重ねて置きます。

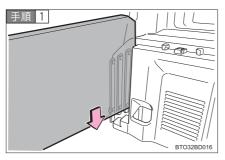
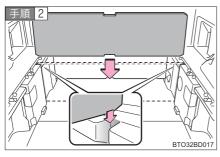
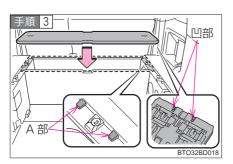
・デッキボード表面の凹部と裏面の凸部を合わせます。
・床面の凸部とデッキボードの凹部を合わせます。

バンドのフックをデッキサイドトリムのフック（2 箇所）に引っ掛けます。

※中央のフックは使用しないでください。

バンドの先端部分を A 部に通します。

バンド先端を引っ張り、ボードをしっかりと固定します。

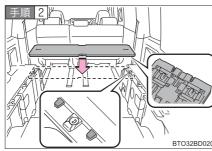
・バンドがねじれていない状態で、A 部が表側を向いていることを確認します。

セパレートラゲージモードで使うには

デッキボードをラゲージルームの各溝に差し込んで固定する。

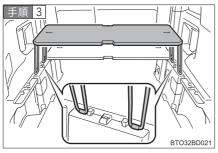
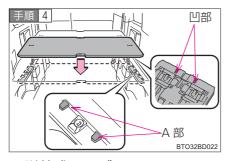
ボックスモードで使うには

デッキボードを図の位置（いちばん車両後方側）に差し込む。

デッキボードを図の位置に差し込む。

デッキボードを図の位置に設置し、ボックスを作る。

デッキボードの凹部を A 部に確実にはめ込んで固定します。

テーブルモードで使うには

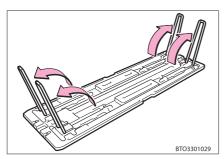
手順 1 セカンドシートを前方に移動する。

デッキボードをいちばん前方の凸部に設置する。

デッキボードの凹部を A 部に確実にはめ込んで固定します。

・テーブル以外のデッキボードを使用します。

テーブルを図の位置に設置する。

デッキボードをいちばん後方の凸部に設置する。

デッキボードの凹部を A 部に確実にはめ込んで固定します。

・テーブル以外のデッキボードを使用します。

■ 脱着式テーブル

テーブル裏側の脚を引き出します。

もとにもどすときは、脚の付け根部分を手で内側に押し込みながら倒します。

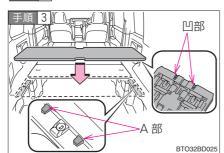
知識

■テーブルモードについて

3 枚のデッキボードのうち、1 枚の裏側にテーブル用の脚がついています。

ベッドモードで使うには

手順 1 セカンドシートを前方に移動する。

手順 2 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。

デッキボードの凹部を A 部に確実にはめ込んで固定する。

警告

■3 分割デッキボードの取り扱いについて

3 分割デッキボードを使用してリヤスペースをアレンジするときは、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中はリヤスペースを作らないでください。
- ●倒したシートの上やリヤスペースに人を乗せて走行しないでください。
- ●3 分割デッキボードを平らに置きセットするときは、デッキボードの凹みをセット位置の凸部に確実にはめて固定してください。
- ●テーブルを中心に向かい合わせで座った状態でバックドアを開けているときは、車外に転落しないように十分注意してください。
- ●バックドアを閉めてテーブルを中心に向かい合わせで座った状態で、かつ車両後方に座っている人がバックドアにもたれかかっているときは、車外からバックドアを開けないでください。
- ●3 分割デッキボードの上に座布団などを敷いて座らないでください。
- ●お子さまが3分割デッキボードの上で、走ったり暴れたりしないようにしてください。

⚠ 注意

■3 分割デッキボードについて

●使用するときは、周囲の人やものに当てたり指などを挟まないように注意してください。

●３分割デッキボード（1 枚あたり）の最大荷重は 80kg です。
3 分割デッキボードに 80kg 以上の荷重をかけると破損の原因となります。

●吹き出し口にデッキボードや、脱着式テーブルの脚を近づけると暖房により熱くなることがあります。（リヤヒーター装着車）

■脱着式テーブルについて

使用するときは以下のことをお守りください。

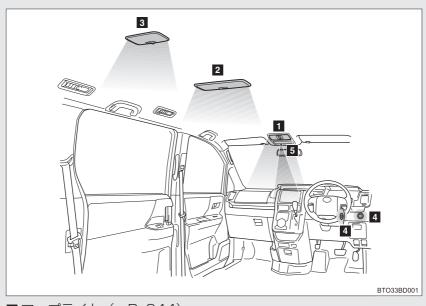
●上に乗ったり、イスとして使用しない

●熱いものを直接載せない

●20kg 以上のものを載せない

●テーブルの脚が完全に開いた状態で使用する

●固定位置にあることを確認する

室内灯一覧

1 マップライト（→P. 244）
2 大型ドームライト*（→P. 245）
3 ルームライト（→P. 245）
4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明
（スマートエントリー&スタートシステム装着車）
エンジン スイッチ照明
（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
5 ダウンライト

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

マップライト、大型ドームライトまたはルームライトのスイッチがドア連動のときに、ドア開状態で各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

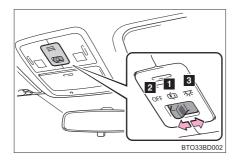
■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 371）

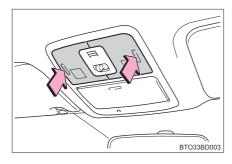
■イルミネーテッドエントリーシステム

マップライト、大型ドームライトまたはルームライトのスイッチがドアのとき、電子キーの検知、ドアの施錠・開錠／開閉、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）により、各部照明が自動的に点灯、消灯します。

マップライト

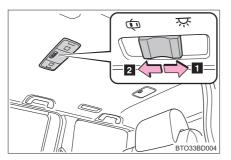
▶ 連動スイッチでの操作

1 ドア連動
2 消灯
3 点灯

スイッチを操作すると、連動して大型ドームライト、ルームライトも作動します。

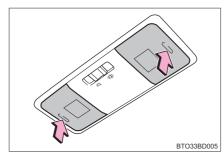
▶ 独立スイッチでの操作

点灯 / 消灯

大型ドームライト*

▶ 連動スイッチでの操作

1 点灯

2 ドア連動

ドア連動にしていると、マップライトに連動して作動します。

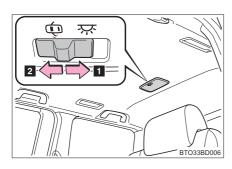
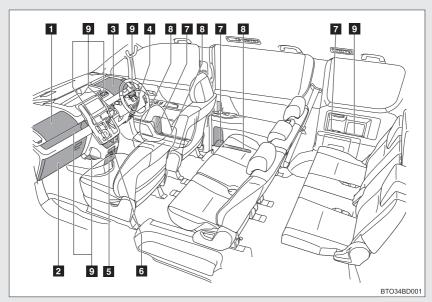
▶ 独立スイッチでの操作

点灯 / 消灯

ルームライト

1 点灯

2 ドア連動

ドア連動にしていると、マップライトに連動して作動します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

1 助手席アッパーボックス
2 グローブボックス
3 運転席アッパーボックス
4 運転席ロアボックス
5 ロアボックス
6 カップホルダー
7 ボトルホルダー
8 ドアポケット
9 小物入れ*

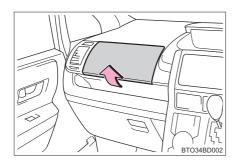
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■収納装備に放置してはいけない物

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、以下のようなことが起きることがあり危険です。

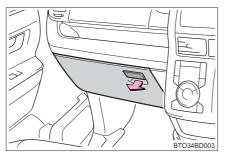
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れをおこす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

助手席アッパーボックス

フタを持ち上げる

警告

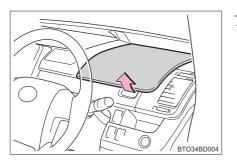
■走行中の警告

助手席アッパーボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

グローブボックス

レバーを引き上げる

警告

■走行中の警告

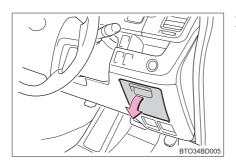
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席アッパーボックス

フタを持ち上げる

⚠ 警告

■走行中の警告

- 走行中にフタの開閉をしないでください。
  とくにハンドルの中に手を入れてフタを開けるようなことはしないでください。ハンドル操作に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席アッパーボックスを必ず閉じてください。
  急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席ロアボックス

取っ手を引いて開ける

知識

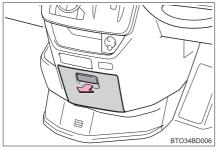
■運転席ロアボックスについて

運転席ロアボックスの中に ETC ユニット*、またはカードホルダー*が装着されています。

⚠ 警告

■走行中の警告

運転席ロアボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

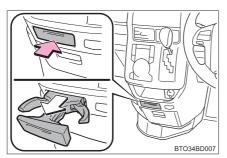
ロアボックス

レバーを引いて開ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**走行中の警告**

ロアボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

カップホルダーを押して出す

警告

■**収納してはいけない物**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■**使わないときは**

カップホルダーを必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ボトルホルダー

▶ フロントドア

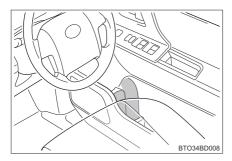
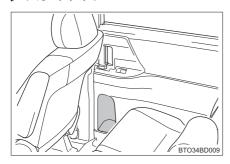
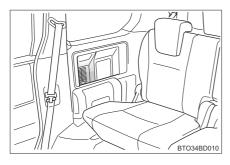
BTO34BD008

▶ スライドドア

BTO34BD009

▶ サードシートサイドトリム*

BTO34BD010

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

注意

■収納してはいけないもの

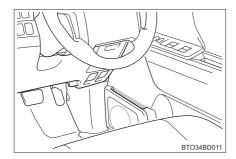
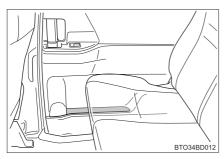
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ドアポケット

▶ フロントドア

BTO34BD011

▶ スライドドア

BTO34BD012

注意

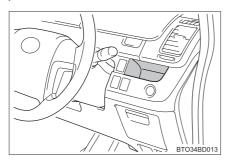
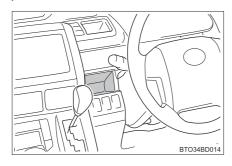
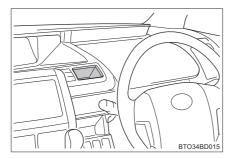
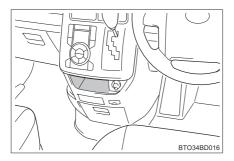
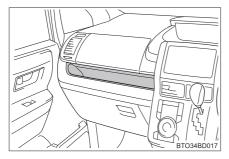
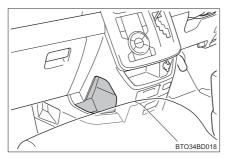
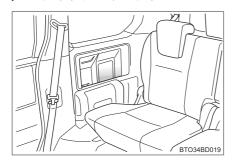
■スライドドアポケットに収納するときは

雑誌などを収納したときは、折れ曲がったりして、ドアポケットからはみ出していないことを確認してください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりでなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷がついたり、故障につながるおそれがあります。

小物入れ

▶ 運転席右側トレイ

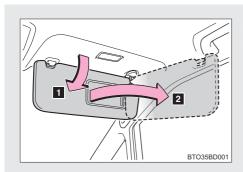
▶ 運転席左側トレイ*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ モバイルポケット

▶ センタートレイ

▶ 助手席トレイ

▶ センターサイドポケット

▶ デッキトリムポケット*

警告

■収納してはいけないもの

トレイ内に転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へ回す

バニティミラー

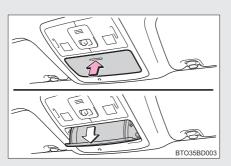
カバーを開けるとライト*が点灯します。

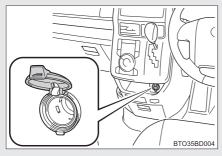
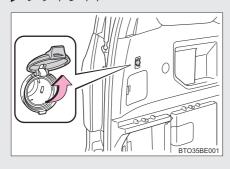
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

後席確認ミラー

リヤシートの状態を確認したいときにお使いください。

カバーを押して開けます。

アクセサリーソケット

使用する電気製品は、必ず DC12 V でフロントとデッキサイドの合計が最大 10 A（最大消費電力 120W）以下の電気製品を使用してください。

▶ フロント

▶ デッキサイド*

知識

■使用条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

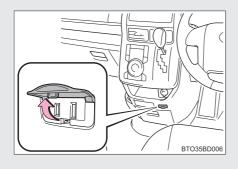
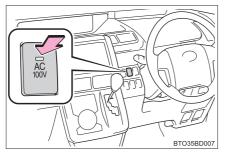
■ヒューズが切れるのを防ぐために

必ず DC12V で合計が最大 10A（最大消費電力 120W）を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント*

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

メインスイッチ

メインスイッチを ON にする。

ON にすると作動表示灯が点灯します。

知識

■使用条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■アクセサリーコンセントについて

●AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使用してください。
最大消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が働き、使用できなくなります。この場合、コンセントをはずして消費電力が 100W 以下になれば使用することができます。

●消費電力が 100W 以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。

・起動時の消費電力が大きい機器（ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など）。
・電源周波数（50 ／ 60Hz）の切り替えのある機器（時計、オーディオなど）。
・精密なデータを計測する機器（医療機器、計量器など）。
・その他（マイコン制御式電気毛布、タッチセンサー付ライトなど）

●使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧を測定できません。

●メインスイッチを ON にしたままにしておくと、アイドル回転が下がらず、燃費の悪化につながることがあります。

⚠注意

■ショートや故障を防ぐために

コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

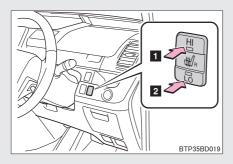
■ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100V で最大消費電力 100W を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

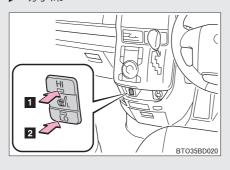
エンジンを停止した状態でアクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

快適温熱シートヒーター＊

▶ 運転席

1 HI（強）

2 LO（弱）

スイッチを押すと、押した側の作動表示灯が点灯します。
押した側と反対側のスイッチを軽く押すと中立の位置にもどり、作動が停止して作動表示灯が消灯します。

▶ 助手席

1 HI（強）

2 LO（弱）

スイッチを押すと、押した側の作動表示灯が点灯します。
押した側と反対側のスイッチを軽く押すと中立の位置にもどり、作動が停止して作動表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ **やけどについて**

●低温やけどを負う恐れがあるため、以下の方は特にご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

●仮眠するときは使用しないでください。
シートが異常加熱し、低温やけどをするおそれがあります。

注意

■ **快適温熱シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

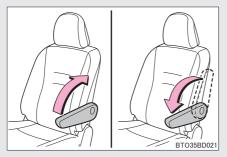
■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはスイッチを中立の位置にもどし、作動表示灯が消灯したことを確認してください。

■ **シート表皮やシートヒーターの損傷を防ぐために**

清掃するときは、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。（→P. 277）

アームレスト

▶ フロントシート（角度調整式装着車）

アームレストを一度上まで上げ、その後一番下まで下げる。お好みの位置まで上げると、アームレストが固定されます。

アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。
下げたいときは一度一番上まで上げてください。

▶ フロントシート（角度調整式非装着車）、セカンドシート*

アームレストを一番下まで下げる。

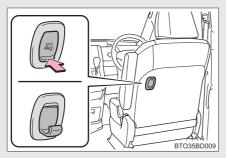
注意

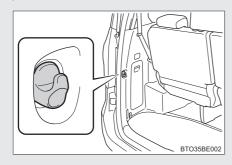
■ **アームレストの破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

買い物フック

▶ 運転席

フックを引き起こします。

▶ デッキサイドトリム*

⚠ 警告

■使用しないときは

格納しておいてください。
指を挟むなどして、けがをするおそれがあります。

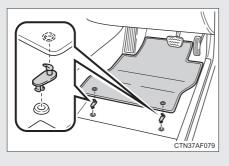
⚠ 注意

■破損を防ぐために

- 運転席のフックを使用しないときは格納しておいてください。
- 4kg 以上のものや大きいものをフックに吊り下げないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

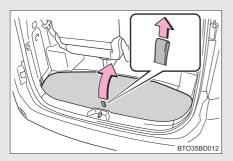
以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

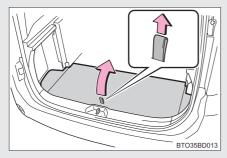
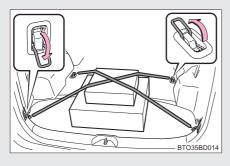
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない。
- 運転席専用のフロアマットを使用する。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない。

■運転する前に

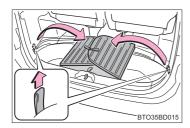
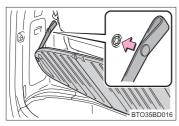
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行う。
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する。

ラゲージルーム内装備

■ デッキボード

▶ 7、8 人乗り車

▶ 5 人乗り車

■ デッキフック

フックを使って荷物を固定することができます。

知識

■デッキボードについて

7、8 人乗り車のデッキボードは左右から開くことができます。

デッキボードは左側ストラップのホックをはずし、デッキサイドに固定することができます。

警告

■デッキフックについて

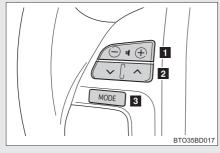
必ずもとの位置にもどしておいてください。

ステアリングスイッチ*

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

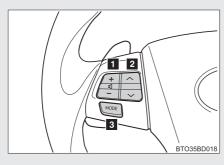
モードの切り替えや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

- メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。
- 販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください

▶ 4 本スポークステアリング装着車

1 音量を調節する
2 CD、ラジオなどの操作
3 電源を入れる、モードを切り替える

▶ 3 本スポークステアリング装着車

1 音量を調節する
2 CD、ラジオなどの操作
3 電源を入れる、モードを切り替える

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電源を入れる

MODE を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

・ 装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

モードを切り替える

電源が ON のとき MODE を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切り替わります。

音量を調節するには

の＋または－を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボディコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ドアミラーを格納してください。また、給油口がしっかりと閉まっていることを確認してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラー*がひっかかり洗車できない場合や、傷ついたりするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■高圧洗車機を使うときは

● 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

● 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。
近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■アルミホイール

● 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

● 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

● 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

● シリコーンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す

● 晴天時に太陽光を 1・2 日間当てる

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先に戻してください。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 81)

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- ●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ●SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→P. 108)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

■シート周辺の注意

室内を掃除するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

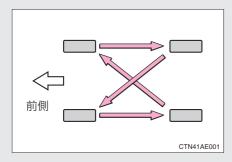
■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

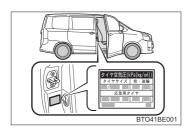
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

前輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2)

後輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤと比べてグリップ力も低下します。冬用タイヤかスノーキャップ※を使用し、道路状況に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

※：スノーキャップについては、トヨタ販売店にご相談ください。

■低扁偏平タイヤの空気圧点検

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。とくに空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

⚠警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- ●タイヤは全て同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ●ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- ●サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車が横滑りする
- ●車の本来の性能（燃費、車両の方向安定性、制動距離など）が発揮されない

注意

■低偏平タイヤについて

低偏平タイヤつきホイールは、路面からの衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用してください。空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凸凹のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石やほかの障害物を避けてください。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

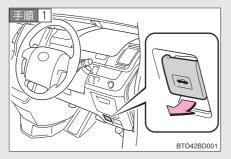
■走行中に空気漏れが起こったら

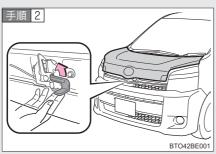
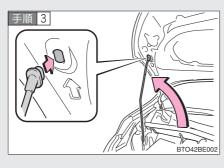
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮きあがります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

ボンネットステーをステー穴に差し込む。

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取りつけてください。
正しい位置に取りつけないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

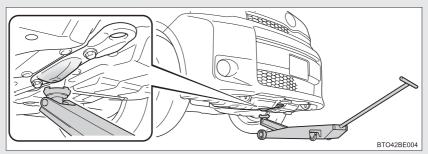
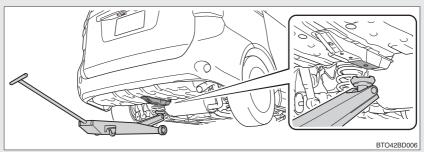
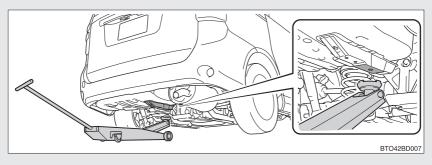
BTO42BE004

■ リヤ側

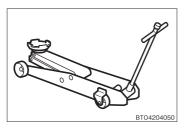
▶ FF 車（前輪駆動）

BTO42BD006

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

BTO42BD007

警告

■**車両を持ち上げるときは**

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用してください。

●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。

●ガレージジャッキおよび自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。

●ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しく取りつけてください。
ガレージジャッキを正しく取りつけずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。

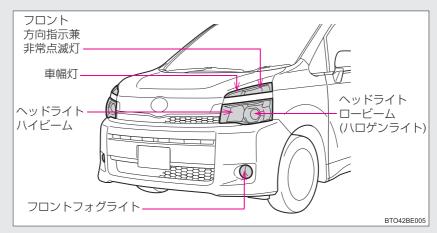
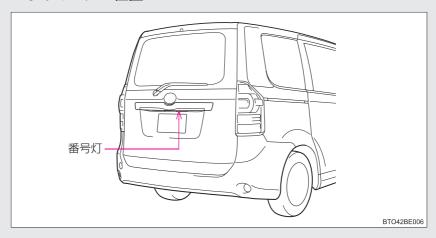
●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

電球（バルブ）の交換

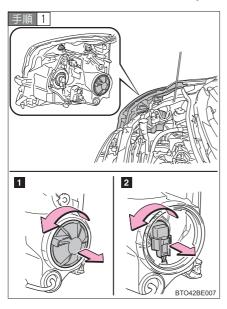
以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確かめてください。（→P. 369）

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

■ ヘッドライトロービーム（ハロゲンバルブ*）

手順 1

1 カバーを回して取りはずす。

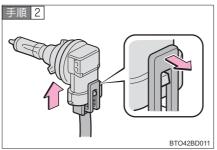
2 ソケットを取りはずす。

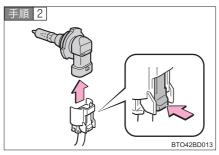
左側のヘッドライトロービームを交換するときは、エアクリーナーのダクトをはずします。（→P. 297）

手順 2

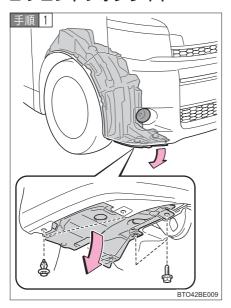
電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

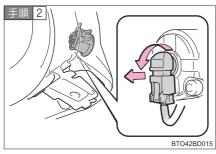
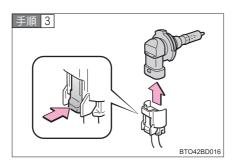
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ヘッドライト（ハイビーム）

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

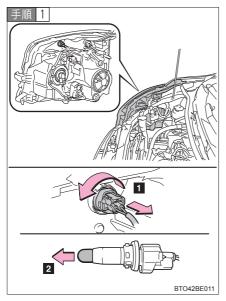
手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ フロントフォグライト*

ボルトとクリップを取りはずし、フェンダーライナーをめくる。

ソケットを取りはずす。

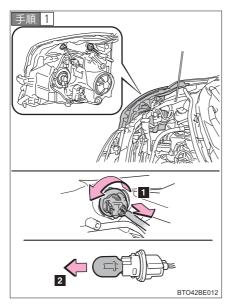
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球を取りはずす。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 車幅灯

1 ソケットを取りはずす。

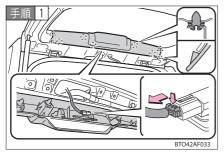
2 電球を取りはずす。

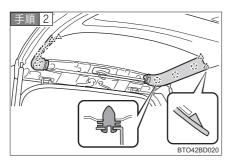
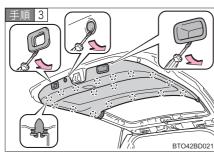
手順 2 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ フロントト方向指示兼非常点滅灯

1 ソケットを取りはずす。

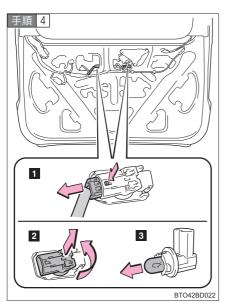
2 電球を取りはずす。

手順 2 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 番号灯

バックドア上部のカバーをはずす。

リヤスポイラー非装着車は、ハイマウントストップライトのコネクタもはずします。

バックドア左右のカバーをはずす。

内張りをはずす。

バックドアハンドル、クリップをはずしてから内張りをはずします。

・パワーバックドア装着車は、パワーバックドアクローズスイッチのスイッチカバーもはずします。

1 ツメを押してコネクタをはずす。

2 ソケットをまわして取りはずす。

3 電球を取りはずす。

手順 5 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ その他の電球

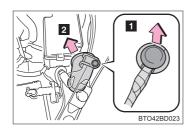
以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

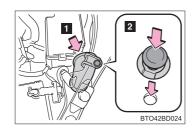
- ヘッドライトロービーム（ディスチャージヘッドライト）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- 後退灯
- リヤ方向指示兼非常点滅灯
- ハイマウントストップライト
- LED イルミネーションビーム

知識

■左側のヘッドライトを交換するときは

エアクリーナーダクトの上部の固定クリップをはずして、ダクトをはずしてから交換します。
交換後は、必ずエアクリーナーダクトをしっかり取りつけ、上部をクリップで固定してください。

●エアクリーナーダクトの取りはずし方

1 クリップの中心を引き出し、はずす。
2 ダクトをはずす。

●取りつけ方

1 ダクトを取りつける。
2 クリップを差し込み、中心を押す。

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴がついている

●ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■電球の交換について

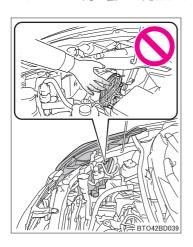
電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取りつけてください。取りつけが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●ディスチャージヘッドライト装着車：
ロービーム点灯中および消灯直後はヘッドライト裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

警告

■ディスチャージヘッドライトについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取りつけられていることを確認ください。

■番号灯を交換するときは

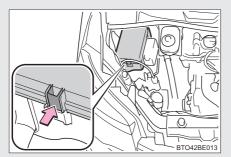
パワーバックドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたとき、パワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

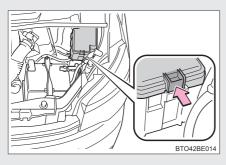
ヒューズの点検、交換

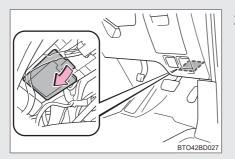
ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

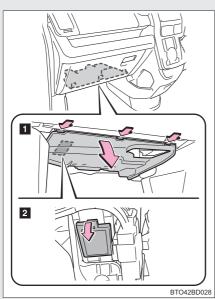
手順 1 " エンジン スタート ストップ " スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを " LOCK "（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にする。

手順 2 ヒューズボックスを開ける。

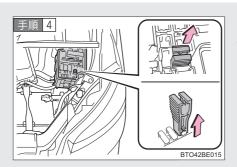
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

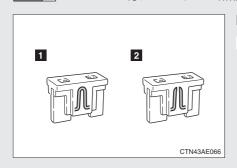
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元

カバーを取りはずす。

▶ 助手席足元

1 足元のカバーを取りはずす。

2 ヒューズボックスカバーを取りはずす。

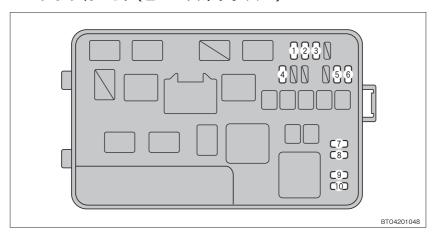
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 303)で確認する。

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

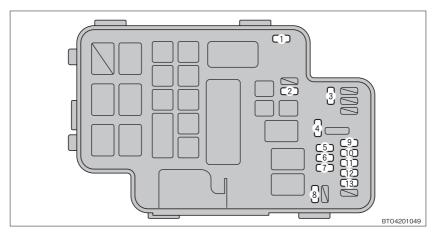
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

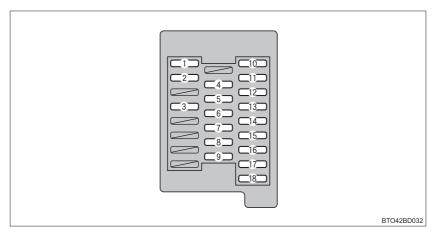
2 ヒューズ切れ

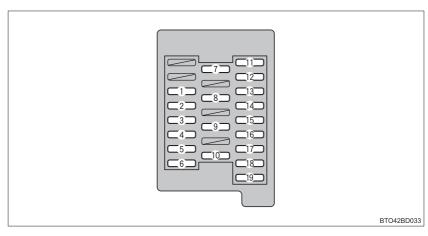
ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	HORN	10A	ホーン
2	STRG LCK	20A	ステアリングロック
3	AMP	30A	オーディオ
4	ECU-B3	7.5A	スマートエントリー&スタートシステム
5	DEICER	20A	フロントワイパーデアイサー
6	FOG	20A	フロントフォグライト
7	H-LP RL	15A	右側ヘッドライト（ロービーム）
8	H-LP LL	15A	左側ヘッドライト（ロービーム）
9	H-LP RH	15A	右側ヘッドライト（ハイビーム）
10	H-LP LH	15A	左側ヘッドライト（ハイビーム）

■ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI NO.2	10A	EFI システム
2	ABS NO.2	30A	ABS、S-VSC
3	ST	5A	スターター
4	MIR HTR	10A	ミラーヒーター
5	RAD NO.1	15A	オーディオ、ナビゲーションシステム
6	DOME	7.5A	室内灯
7	ECU-B	10A	メーター
8	EFI	20A	EFI システム
9	IG2	15A	スマートエントリー&スタートシステム
10	TRN HAZ	15A	方向指示兼非常点滅灯
11	AM2 NO.2	7.5A	エンジンスイッチ
12	ETC-S	10A	電子制御スロットル
13	INJ	25A	EFI システム

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR WIP	30A	フロントワイパー
2	SEAT HTR RH	10A	運転席側シートヒーター
3	RH ECU-IG	10A	EPS
4	P/POINT	15A	アクセサリーソケット
5	CIG	15A	アクセサリーソケット
6	RAD NO.2	7.5A	オーディオ、ナビゲーションシステム
7	ECU-ACC	7.5A	シフトロック
8	IGN	10A	イグニッション
9	MET-IGN	7.5A	メーター
10	LIFT UP	30A	サイドリフトアップシート
11	RR FOG	7.5A	リヤフォグライト
12	P/W FR	20A	パワーウインドウ
13	SIDE STEP	30A	補助ステップ（ウェルキャブ）
14	AM1	7.5A	エンジンスイッチ
15	STOP	15A	制動灯
16	OBD	7.5A	ダイアグノーシスコネクター
17	PSD RH	30A	パワースライドドア
18	P/W RR	20A	パワーウインドウ

■ 助手席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	LH ECU-IG	10A	パワースライドドア、 パワーバックドア
2	SEAT HTR LH	10A	助手席側シートヒーター
3	GAUGE NO.2	10A	メーター
4	STP RR	7.5A	制動灯
5	STP HI MT	7.5A	ハイマウントストップライト
6	STP RL	7.5A	制動灯
7	RR WIP	15A	リヤワイパー
8	GAUGE NO.1	10A	メーター
9	PANEL	10A	スイッチ照明
10	TAIL	10A	尾灯
11	WELCAB	30A	サイドリフトアップシート
12	4WD	7.5A	4WD システム
13	AC INV	15A	アクセサリーコンセント
14	DR LOCK	30A	電気式ドアロック
15	P/W FL	20A	パワーウインドウ
16	S/R	20A	ムーンルーフ
17	PSD LH	30A	パワースライドドア

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
18	P/W RL	20A	パワーウインドウ
19	PBD	30A	パワーバックドア

知識

■ヒューズを交換したあと

- ●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 288)
- ●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

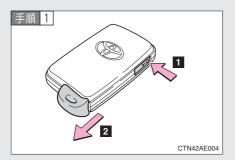
- ●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- ●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

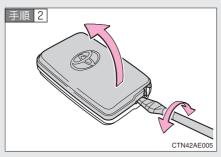
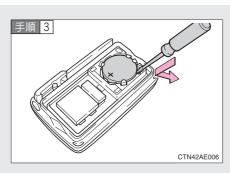
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、ＣＲ2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを抜く。

カバーをはずす。

手順 3

消耗した電池を取り出す。

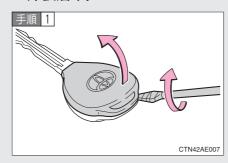
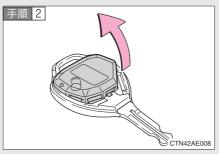
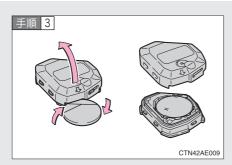
新しい電池は＋極を上にして取りつけます。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

手順 1

カバーをはずす。

手順 2

モジュールを取り出す。

コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す。

新しい電池は＋極を上にして取りつけます。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- ●スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

■リチウム電池　CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

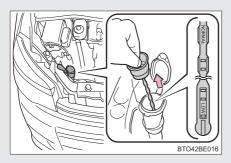
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

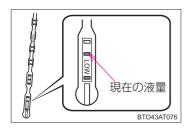
■**交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり布きれを当ててからはずしてください。
  カバーに傷がつくおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

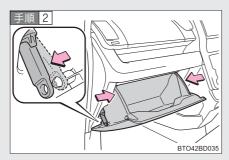
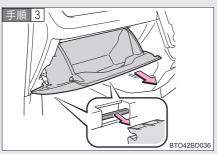
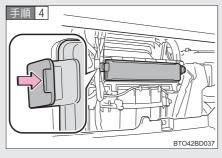
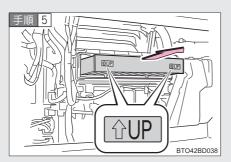
■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ LOCK ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にする。

グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす。

グローブボックスを持ち上げ、下部のツメをはずして取りはずす。

フィルターカバーを取りはずす。

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取りつけます。

手順 6 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km[7,500km※] ごと

交換：30,000km[15,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

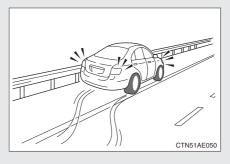
トラブルが起きたら 5

5-1. まず初めに

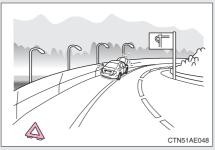
5-2. 緊急時の対処法

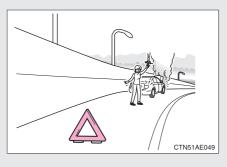
故障したときは

故障したときは速やかに下記の指示に従ってください。

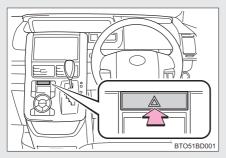
CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 319)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 320)

非常点滅灯

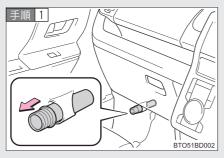
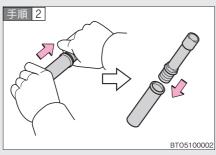
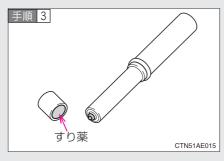
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す。

本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

先端のフタをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- ●トンネル内
- ●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- ●発炎筒は、お子さまにさわらせない

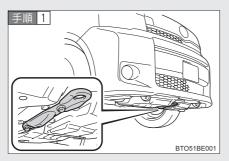
けん引について

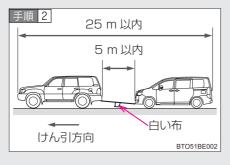
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布をつける。

布の大きさ：

0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

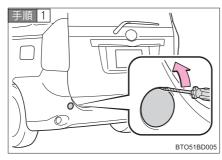
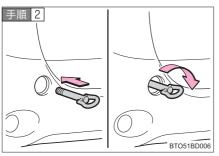
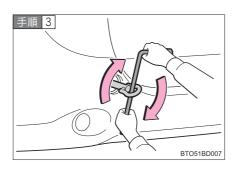
エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにします

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ACC”にします

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取りつけかた

マイナスドライバーと当て布を使ってフタをはずす。

けん引フックを穴に差しこみ軽く締める。

ホイールナットレンチを使い確実に取りつける。

知識

■他車をけん引する

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引について

トーイング装置を装着する場合は、制動灯からの電源の取りかたに注意してください。

■けん引フックの収納位置

→P. 334

警告

■けん引フックを車両に取りつけるとき

指定の位置にしっかりと取りつけてください。
指定の位置にしっかりと取りつけないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■車両を運搬するときは

必ず4輪接地または4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼きつきを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。

警告

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■他車をけん引するときは

自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

⚠注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転席および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモード（スマートエントリー&スタートシステム装着車)、またはエンジンスイッチが“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）でエンジンが停止しているときやアイドリング状態のとき、ブレーキペダルを数回踏むと点灯します。エンジン始動後や回転中に消灯すれば正常です。

※ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
車速が 5km/h を超えると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 ・充電系統の異常
	油圧警告灯 ・エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯（赤色点滅時） ・エンジン冷却水温の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯（S-VSC 装着車）** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	ABS 警告灯（S-VSC 非装着車） ・ABS の異常

警告灯	警告灯名・警告内容
4WD	**4WD 警告灯＊** ・4WD システムの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯＊ ・自動光軸調整システムの異常
VSC OFF （点滅）	**VSC OFF 表示灯＊** ・S-VSC システム、TRC システムの異常
	スリップ表示灯＊ ・S-VSC システム、TRC システムの異常
AUTO	**4WD オートモード表示灯＊** ・4WD システムの異常
	クルーズコントロール表示灯＊ ・クルーズコントロールシステムの異常

知識

■パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 9L 以下）	燃料を給油
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

※　**運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

ただちに処置してください。(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

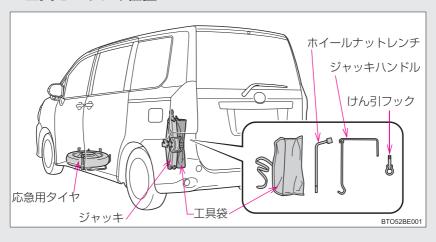
車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告内容	対処方法
1回	なし	(8秒間点灯)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1回	3回		電子キーを携帯していない状態かつ“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
1回	3回		電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーがPの状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにする または電子キーを携帯する
連続	連続		電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーがP以外の状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	シフトレバーをPにする または電子キーを携帯する

パンクしたときは

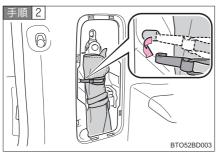
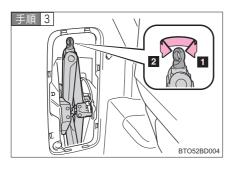
パンクしたタイヤを、備えつけの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 280 をご覧ください。）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

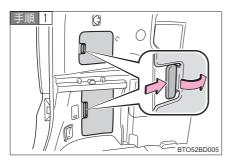
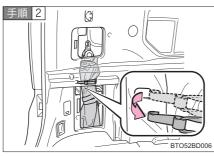
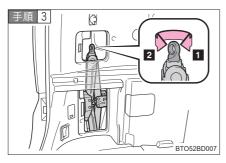
■ 工具とジャッキ位置

工具・ジャッキの取り出しかた

▶ 7、8 人乗り車

カバーをはずす。

固定バンドをはずし、工具袋を取り出す。

ジャッキを取り出す。

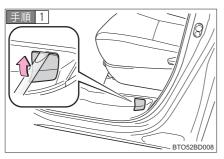
1 締める

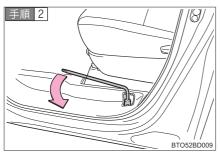
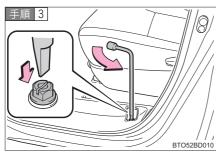
2 ゆるめる

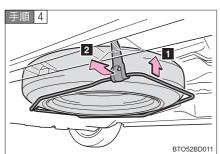
▶ 5 人乗り車

カバーをはずす。

固定バンドをはずし、工具袋を取り出す。

ジャッキを取り出す。

1 締める

2 ゆるめる

応急用タイヤの取り出しかた

助手席のステップにあるカバーをはずす。

ホイールナットレンチの先やコインなどを使用して、カバーをはずします。

ステップ内のボルトをホイールナットレンチである程度までゆるめる。

ホイールナットレンチの先でさらにゆるめる。

ホイールナットレンチの先をボルトの溝にはめ込み、格納具をフックから取りはずせるくらいまでさらにゆるめます。

格納具をフックからはずす。

1 格納具を少し持ち上げる。

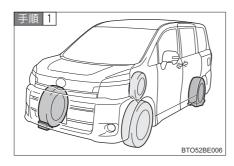
2 フックをはずす。

手順 5 格納具を地面におろし、応急用タイヤを両側から持ち、手前に引き出す。

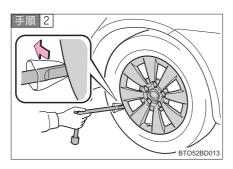
応急用タイヤを少し引き出すと、応急用タイヤが格納具から落下します。そのまま引き出してください。

手順 6 格納具をもとにもどす。

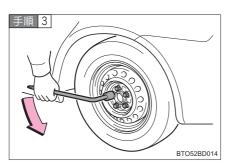
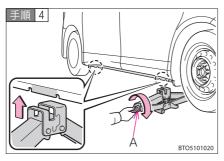
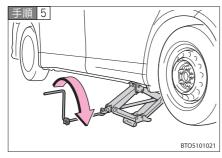
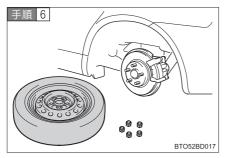
格納具をフックにかけ、ステップ内のボルトを十分に締めつけて、もとにもどします。

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする。

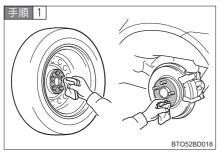
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす。*

傷がつくのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

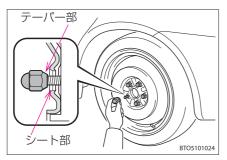
* スチールホイールのみ

ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

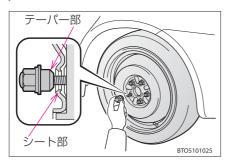
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

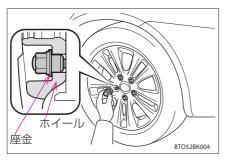
タイヤの取りつけ

ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取りつけ、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

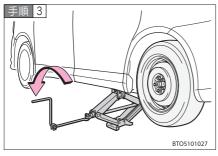
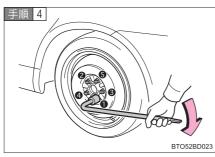
▶ スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで回す。

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで回す。

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまで回す。

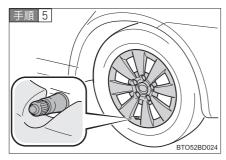
手順 3

車体を下げる。

手順 4

図の番号順でナットを2、3度しっかり締めつける。

締めつけトルク：

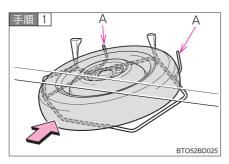
103 N・m (1050 kgf・cm)

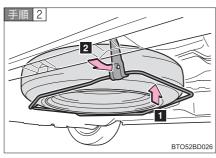
手順 5

ホイールキャップを取りつける。*

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取りつける。

* スチールホイールのみ（応急用タイヤに取りつけることはできません）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

応急用タイヤの格納

タイヤを格納具にのせる。

ホイールの意匠面を上にしてタイヤを格納具の奥（A 部）にあたるまで押し込みます。

格納具を持ち上げてフックをかけ、ステップ内のボルトを締めつける。

1 格納具を少し持ち上げる。

2 フックをかける。

格納具を持ち上げてタイヤがボディ側に収まっていることを確認してからフックをかけてください。

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P. 369）

■標準タイヤの格納について

標準タイヤは、応急用タイヤ格納具に格納できません。パンクなどではずした標準タイヤは、ラゲージルームに格納してください。

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取りつけ、取りはずし以外の目的で使用しない

●備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない

●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる

●ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない

●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない

●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない

●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない

●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない

●車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

ケガを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取りつけには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける。
上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■応急用タイヤを取り出すときは

●格納具からタイヤを落とすなどして手や腕、足を挟まないように注意してください。

●ステップ内のボルトをゆるめるときは、20 回転程度にしてください。50 回転以上回すとフックがはずれてタイヤが落下し、思わぬけがをするおそれがあります。

●応急用タイヤはジャッキアップする前に必ず取りはずしてください。ジャッキアップしたあとに応急用タイヤを取りはずすと、作業中にジャッキがはずれるなどして思わぬけがをするおそれがあります。

●格納具のボルトをホイールナットレンチでまわすときは、ゆっくりと回してください。勢いでホイールナットレンチが車体にあたり傷ついたり、手や指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

警告

●応急用タイヤを取り出すときは、応急用タイヤ上面とボデーのあいだに手を入れないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

■応急用タイヤを使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください

●同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ABS& ブレーキアシスト

●S-VSC *

●TRC *

●クルーズコントロール*

●ナビゲーションシステム*

●バックガイドモニター*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

●4WD システム*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。
また、変形や亀裂など損傷したホイールは使用しないでください。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

■応急用タイヤの格納について

応急用タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 145、P. 149）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 146、P. 150）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 145、P. 149）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 105）

■ スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 353）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターが回らない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 353）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時エンジン始動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 シフトレバーを P に入れる

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを長押しする。

上記の手順にしたがいエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

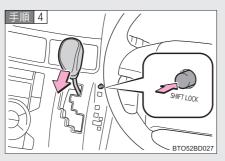
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ ACC ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

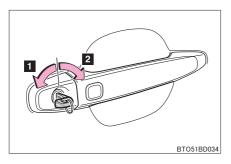
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 22)

電子キーが正常に働かないときは(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり(→P. 33)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠

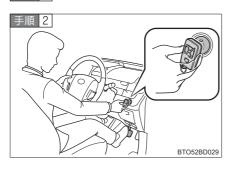
BTO51BD034

メカニカルキー(→P. 22)を使って操作します。

1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

モードの切り替え、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む。

手順 2

BTO52BD029

電子キーのトヨタエンブレム面で“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れます。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切り替え：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すごとにモードが切り替わります。（→P. 145）
エンジン始動：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

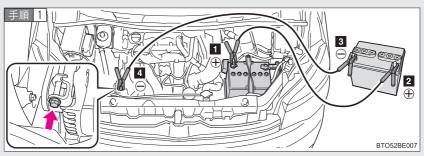
通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。

■電池交換について

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 308）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、次の操作をしてから自車のエンジンをかける。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをいったんイグニッション ON モードにします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチをいったん“ON”にします。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させせない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させせない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚·衣服·車体につかないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近づけない

●誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■ **ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

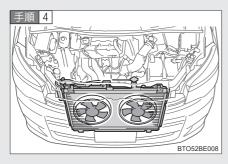
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

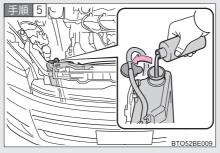
ファンが作動している場合：

高水温警告灯が消灯してからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

手順 4

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

手順 5

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

●水温計警告灯が赤色に点滅したり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

▶ FF 車（前輪駆動）

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC,S-VSC *の作動で脱出しにくいときは、TRC または S-VSC *を停止してください。（→P. 183）

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 4WD オートモードになっていることを確認する。（→P. 178）

手順 6 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC,S-VSC *の作動で脱出しにくいときは、TRC または S-VSC *を停止してください。（→P. 183）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**脱出するときの警告**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。

●この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

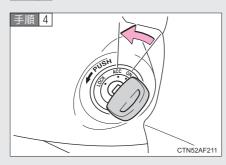
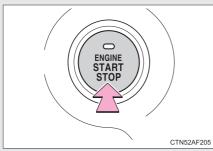
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ ACC”にして、エンジンを停止する。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを 3 秒間以上押し続けてエンジンを停止する。

・車両によりスイッチの意匠が異なります。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■**走行中にやむを得ずエンジンを切るときは**

●ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両の仕様

6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

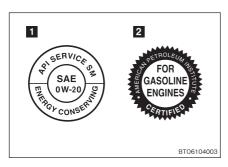
銘柄	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	60

エンジンオイル

銘柄	容量 [L]（参考値）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20 ―API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 0W-20 ※ トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 ―API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 ―API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 ―API SL, EC, SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 ―API SL, EC, SAE 10W-30	3.9	4.2

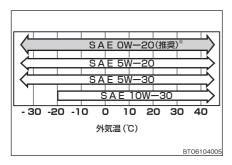
※：0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック認証）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※：0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

● オイル粘度表示の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

● 5W-30 の 30 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

<table>
<tr><th>銘柄</th><th colspan="2">容量 [L]
（参考値）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
凍結保証温度
濃度 30%　-12 ℃
濃度 50%　-35 ℃</td><td>リヤエアコン
非装着車</td><td>6.6</td></tr>
<tr><td>リヤエアコン
装着車</td><td>8.6</td></tr>
</table>

オートマチックトランスミッション

銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　TC	8.7

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

トランスファー

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	104 以上

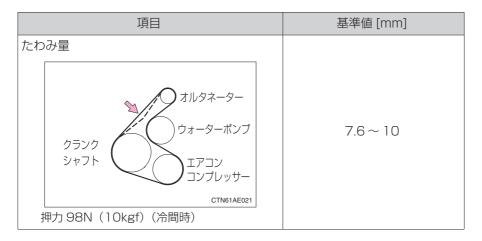
※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

V リブドベルト

項目	基準値 [mm]
たわみ量 押力 98N（10kgf）（冷間時）	7.6 ～ 10

ウォッシャー

	容量 [L]（参考値）
寒冷地仕様車	4.5
寒冷地仕様車を除く	2.5

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
標準タイヤ	195/65R15 91S	240 (2.4)	
	205/60R16 92H	240 (2.4)	
	215/45R18 89W ※	240（2.4）	
スペアタイヤ	T135/80D16 101M	420 (4.2)	

※ G's 用 18 インチホイール装着時のタイヤです。

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（ディスチャージヘッドライト） ロービーム（バルブタイプ：H11）	 60 35 55
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	LED イルミネーションビーム*	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車外	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	マップライト	8
	大型ドームライト*	8
	ルームライト	8
	スポットライト（大型ドームライト装着車）	8
	ラゲージルームライト	5
	バニティライト*	8

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ZRR70G	3ZR-FAE （2.0L ガソリン）	FF（前輪駆動）
ZRR75G		4WD（4 輪駆動）
ZRR70W		FF（前輪駆動）
ZRR75W		4WD（4 輪駆動）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="3">スマートエントリー&スタートシステム*
(→P. 24)</td><td>スマートエントリー&スタートシステム</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（非常点滅灯）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（ブザー）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ワイヤレスドアロック
(→P. 34)</td><td>ワイヤレス機能</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間</td><td rowspan="2">30 秒</td><td>60 秒</td></tr>
<tr><td>120 秒</td></tr>
<tr><td>作動の合図（非常点滅灯）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（ブザー）（スマートエントリー&スタートシステム装着車）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ライト自動点灯・消灯システム*
(→P. 168)</td><td>ライトセンサーの感度調整</td><td>レベル３</td><td>レベル１～５</td></tr>
<tr><td>ライトを点灯するまでの時間</td><td>標準</td><td>長め</td></tr>
</table>

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション（→P. 243）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし

初期設定が必要な項目

以下の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワースライドドア*	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 44
バックドア	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 54
パワーバックドア*	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 54

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

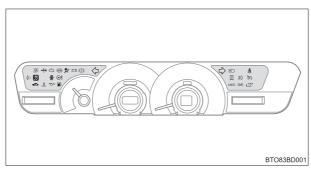
さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
LED	ライトエミッティングダイオード
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール

五十音順さくいん

症状別さくいん

症状	ページ	参照先
タイヤがパンクした	P. 334	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 347	エンジンがかからないときは
	P. 105	エンジンイモビライザーシステム
	P. 353	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 349	シフトレバーがシフトできないときは
水温警告灯が点滅した	P. 357	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから蒸気が立ちのぼった	P. 357	オーバーヒートしたときは
キーをなくした	P. 350	キーを無くしたときは
バッテリーがあがった	P. 353	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 24 P. 34 P. 37	ドア
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 359	スタックしたときは
警告灯が点灯、点滅した	P. 329	警告灯がついたときは

BTO83BD001

■警告灯一覧

警告音が鳴った

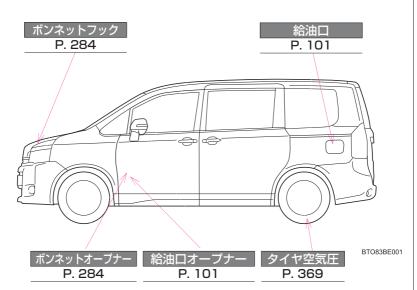
■警告灯の点灯、点滅を確認ください。

● 警告灯が点灯、点滅している（→P. 329）

■警告灯の点灯、点滅がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 31
	車外に出たとき	
	スマートエントリ＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 154
	シフトダウンしたとき	P. 153
	ブレーキを踏んだとき	P. 143

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 (参考値)	60L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリンP. 102, 364
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ 前後輪：240 (2.4) kPa (kg/cm²) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm²)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 :3.9L オイルとフィルター交換時 :4.2 L
エンジンオイルの種類 (参考値)	トヨタ純正モーターオイル ・ SM0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20) ・ SM5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・ SM10W-30(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・ SL5W-20 (API SL、EC、SAE 5W-20) ・ SL10W-30(API SL、EC、SAE 10W-30)

ラ−14

M 28759
01999ー28759
IB−2010年 4 月20日
2010年 4 月27日 初版
ヴォクシー